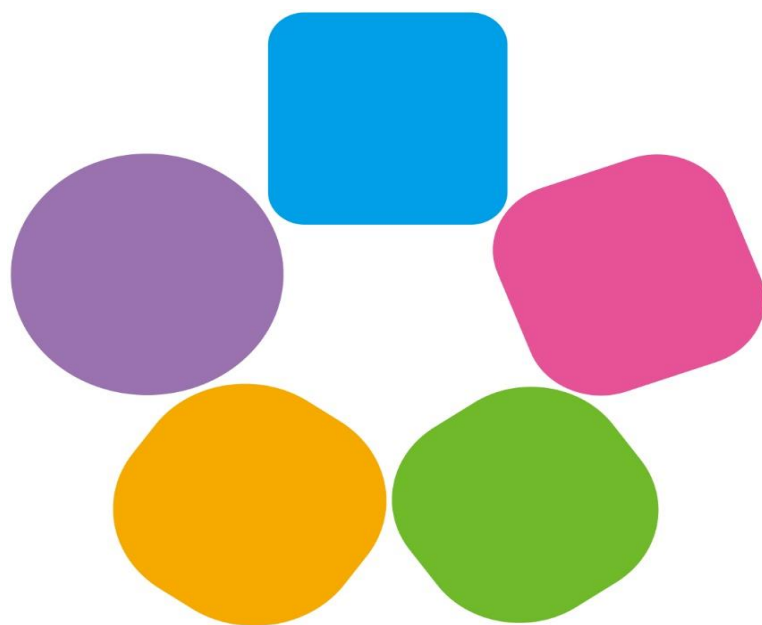


男女共同参画社会づくりのための
町民意識調査 報告書



令和8(2026)年6月
愛媛県 愛南町

◆この報告書について

- ①ウエイト値集計及び小数点以下第2位を四捨五入しているため、回答比率の合計が100%にならない場合や表示の合計値と個々の選択肢集計値の合計が一致しない場合があります。
- ②2つ以上の回答を可能とした(複数回答)質問の場合、その回答比率の合計は100%を超える場合があります。
- ③男女別・年齢別集計については、特徴的な傾向がみられた設問を中心に掲載しています。
- ④詳細なクロス集計結果は別添資料として掲載します。
- ⑤この調査は町内の18歳以上の方から無作為に選んだ1,395人に送付して実施しました。

◆目次

・調査結果・・・P2

1 回答者の基本属性	P2
2 男女平等意識について	P4
3 家庭生活における男女共同参画について	P13
4 職業における男女共同参画について	P16
5 学びの場における男女共同参画について	P23
6 地域活動への参加について	P24
7 ドメスティック・バイオレンス(DV)について	P25
8 困難な問題を抱える女性への支援について	P28
9 防災分野における男女共同参画について	P30
10 意思決定の場における女性参画等について	P31
11 自由記述	P34

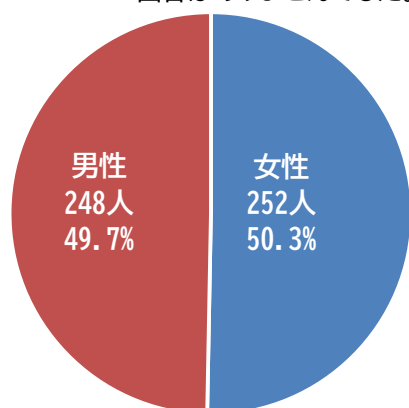
・調査結果の全体的な傾向と考察・・・P39

・調査票・・・P40

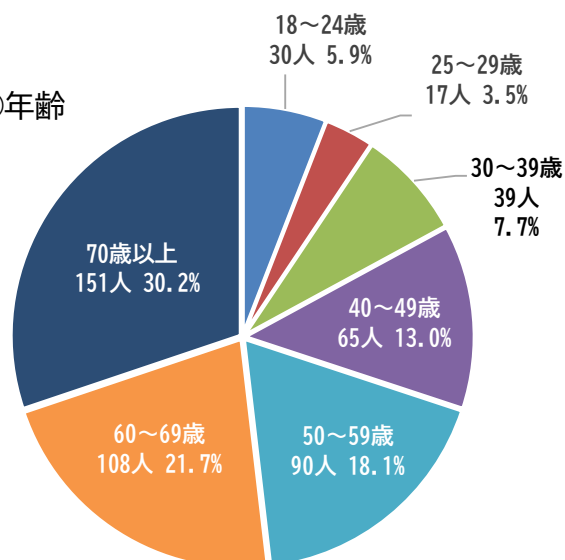
愛南町「男女共同参画社会づくりのための町民意識調査」結果

1 回答者の基本属性

①性別 ※「その他」、「答えたくない」の回答はありませんでした。

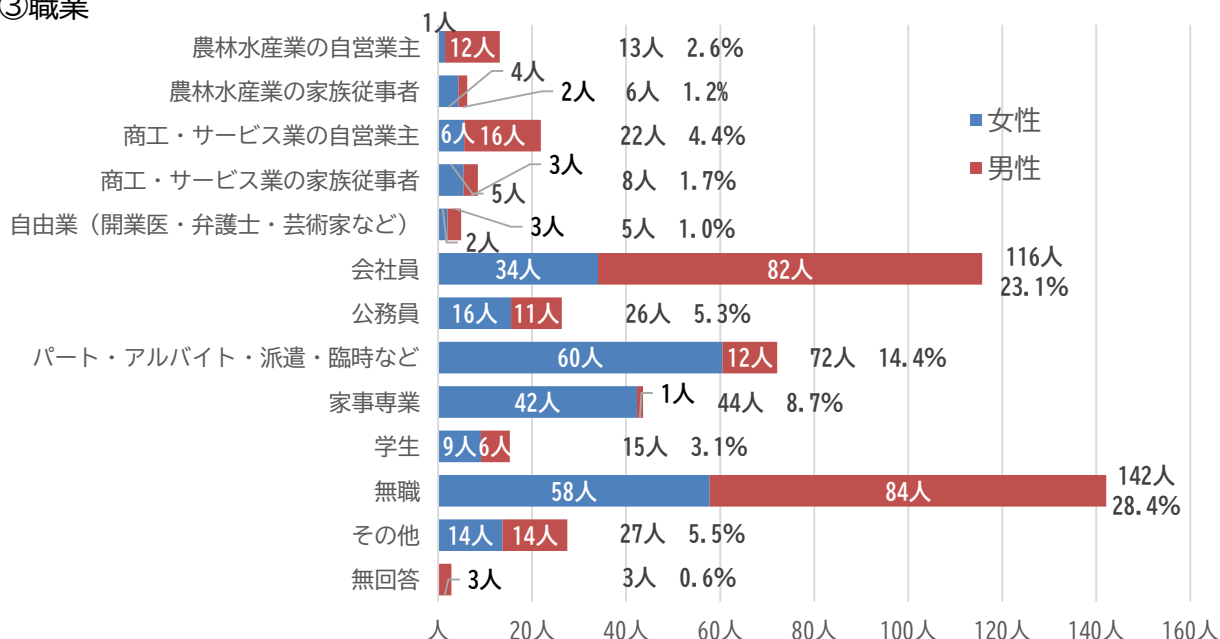


②年齢



回答は500人で、男女の比率は、ほぼ同数です。
 年齢では、70歳以上が30.2%でも最も多く、60～69歳を合わせると51.9%と半数以上、50～59歳以上を含めると70.0%となり、高齢層の意見が多く反映された調査結果となっています。

③職業



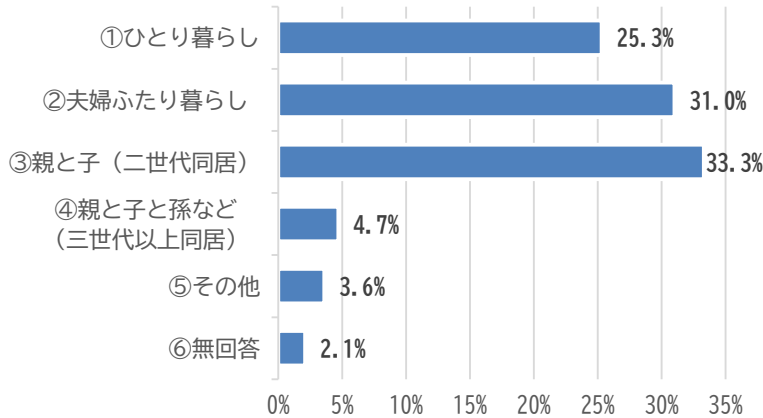
職業を見ると、無職が28.4%となっており、高齢層の多さが、職業構成にも表れています。一方で、会社員やパート・アルバイト等も一定割合を占めており、就業者の意見も十分に反映されています。

性別割合を見ると、農林水産業の自営業主では13人中12人が男性、商工・サービス業の自営業者では22人中16人が男性と、女性の割合が低くなっています。また、会社員では、116人中82人が男性と約7割を占めていますが、一方パート・アルバイト等では、72人中60人と約8割が女性となっています。

自営業主に占める女性の割合が低いことは、地域における意思決定や経営の場への女性参画の課題とも関連していると考えられます。また、女性にパート・アルバイト等が多いことは、家事・育児・介護など家庭内役割との両立を図りながら働いている実態を反映している可能性があります。

問4

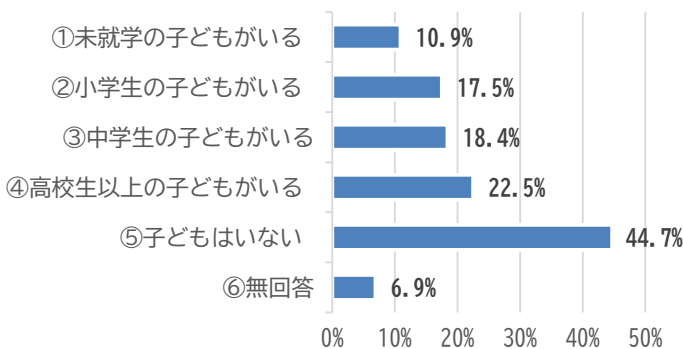
同居の家族の構成についてお答えください(事実婚を含む)



最も多いのは、「親と子の二世帯同居」33.3%で、「夫婦ふたり暮らし」、「ひとり暮らし」が続きます。高齢層の割合が多いため、夫婦ふたりやひとり暮らしの割合が高くなっています。
核家族化により、三世帯以上同居は、4.7%にとどまっています。

問5

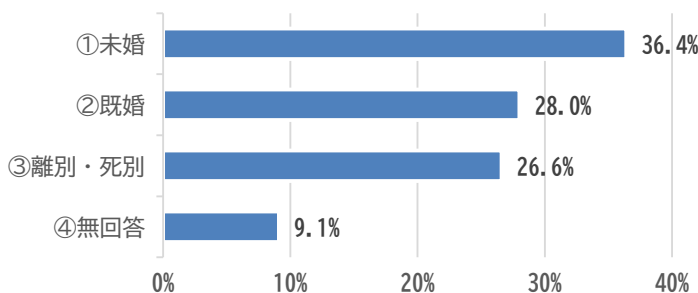
[問4で3~5と回答した方]同居している子どもについてお答えください(複数回答)



「子どもはいない」44.7%が最も多くなっています。これは、高齢層が多いことから、成人した子どもとの同居や親子以外の家族構成が含まれるためと考えられます。
子育て世代では、「高校生以上」が最も多く、「未就学時」は10.9%にとどまり、子育て支援に関する設問では、比較的年齢の高い子どもを持つ家庭の意見が多く含まれているといえます。

問6

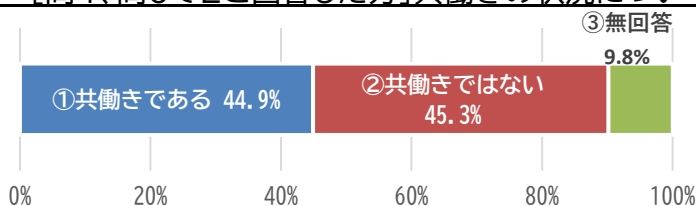
[問4で1、3~5と回答した方]あなたは結婚していますか。(事実婚を含む)



「未婚」が36.4%で最も多いものの、「既婚」、「離別・死別」も約3割を占めています。

問7

[問4、問6で2と回答した方]共働きの状況についてお答えください。

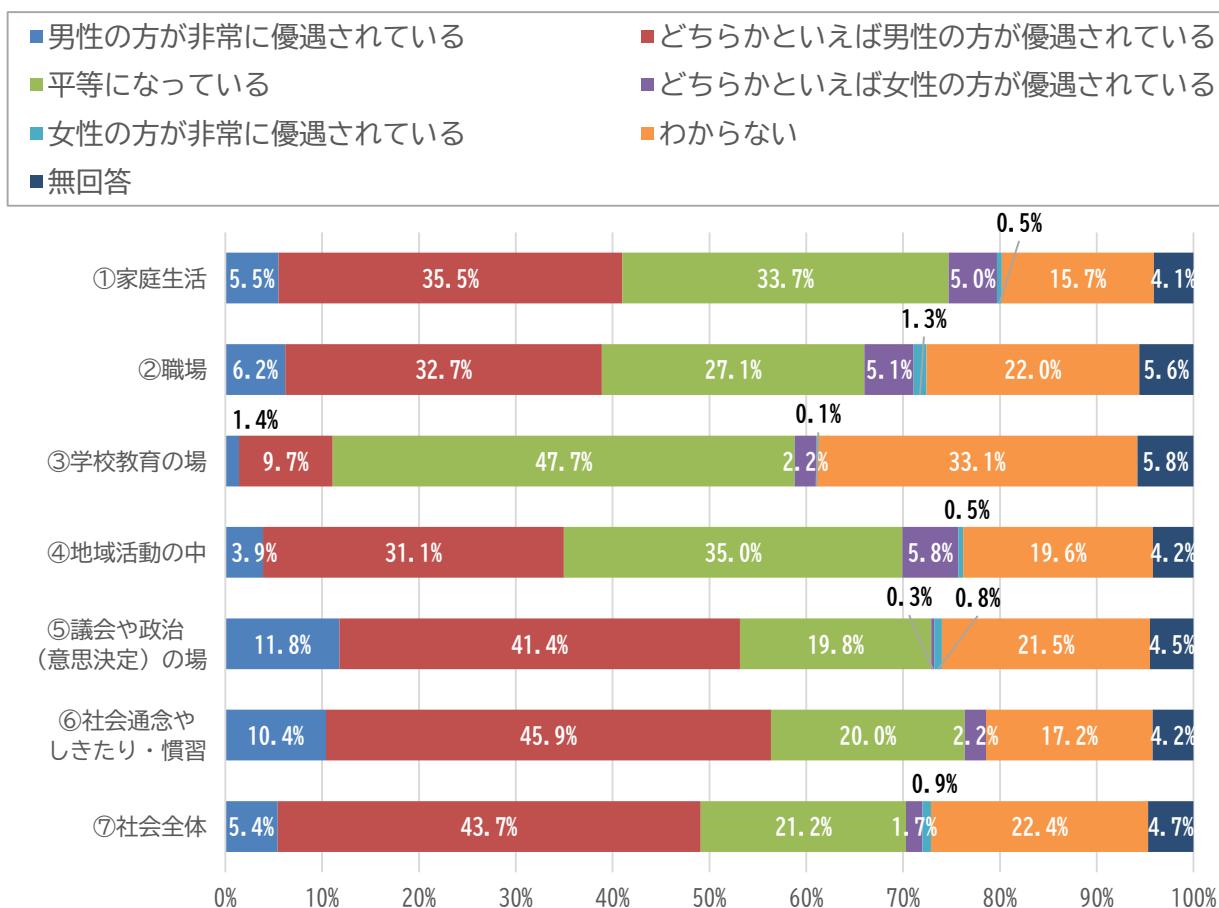


共働き世帯と、共働きではない世帯がほぼ同割合です。
共働き世帯が一般的である一方、高齢層が多いため、退職後世帯や専業主婦(主夫)も多くなっていると考えられます。

2 男女平等意識について

問8

今の愛南町の現状をみて、各分野で、男女の地位はどのようになっていると思いますか



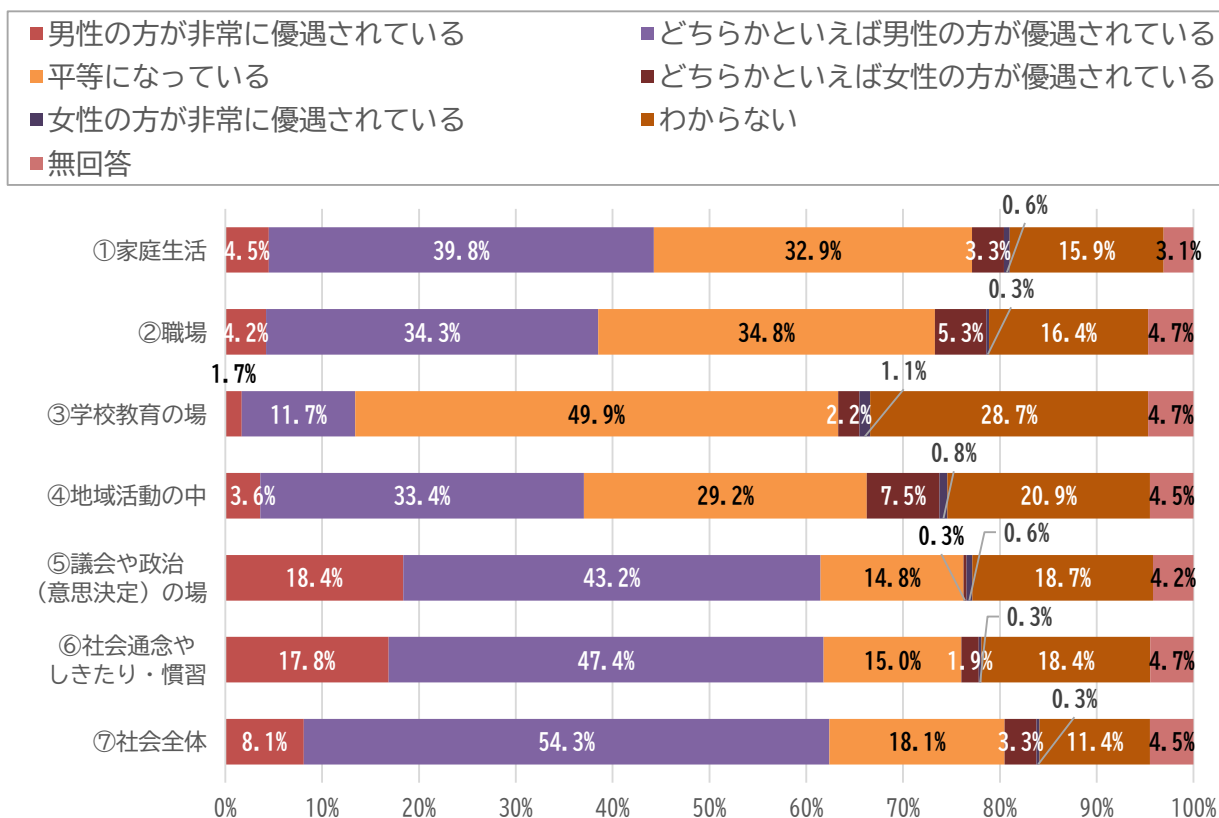
「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と男性が優遇されていると感じる割合が特に高いのは、⑥社会通念やしきたり・慣習で56.3%、続いて⑤議会や政治(意思決定)の場で53.2%となっています。制度や地域文化の中に、まだ男性中心の構造が残っていると感じていると考えられます。

⑦社会全体についても、49.1%と約半数が、「男性が優遇されている」と感じています。また、①家庭生活でも、41.0%が「男性が優遇されている」と感じており、「平等になっている」33.7%よりも高くなっており、家事・育児・介護・家庭内の意思決定などの面で、依然として性別役割分担意識が残っていると感じているようです。

一方、③学校教育の場では、「平等」と感じている割合が47.7%と半数近くを占めており、教育現場については、男女平等が進んでいるという認識が広がっていると考えられます。

◇問8について令和2(2020)年の調査と比較します

<5年前調査結果>



問8の男女平等意識について、5年前調査と比較すると、⑦社会全体、⑥社会通念やしきたり・慣習、⑤議会や政治(意思決定)の場において「男性が優遇されている」と感じる割合が依然として高いものの、いずれも前回調査より低下しており、男女平等意識は改善がみられます。

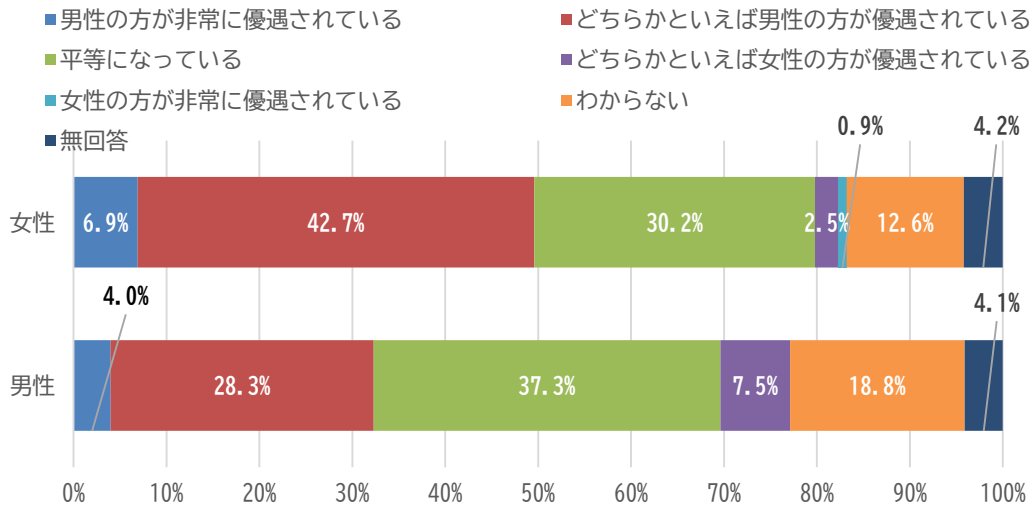
一方、③学校教育の場では前回調査も今回と変わらず「平等」と感じている割合が最も高く、男女平等が進んでいる分野として認識されています。

今後は、政治・意思決定分野や地域社会に残る慣習等における男女格差の解消が引き続き課題と考えられます。

◇問8の中で、性別・年代別回答割合が特徴的なものについて取り上げます

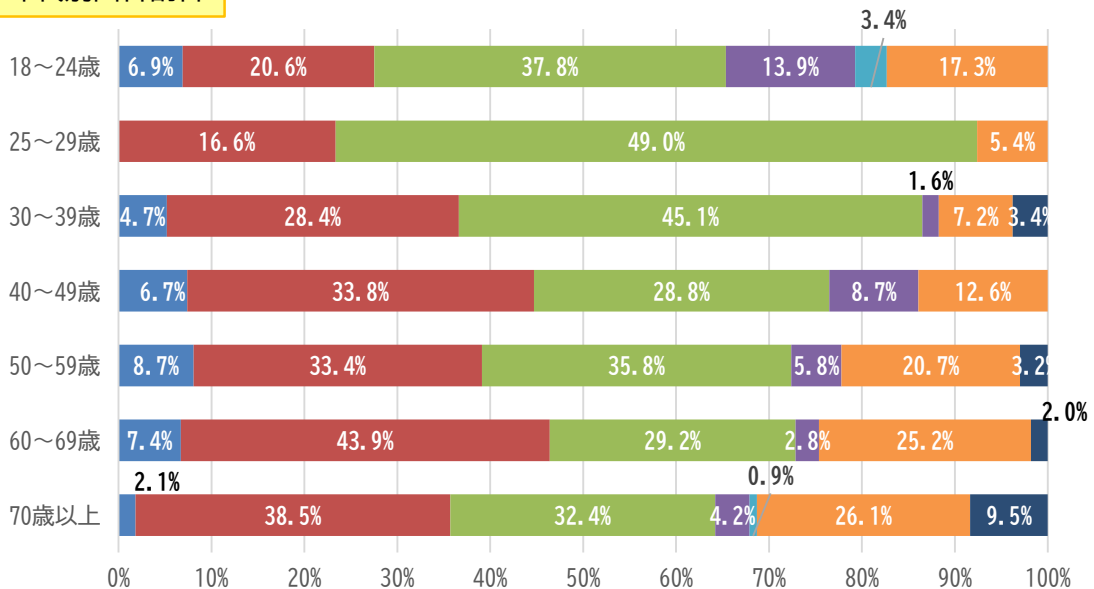
①家庭生活

性別回答割合



男女別でみると、女性では49.6%、男性では32.3%が「男性優遇」と感じており、女性の方が家庭生活における男女の不平等を感じている割合が高くなっています。一方、男性では「平等」と感じている割合が女性より高くなっており、家庭内の役割分担や負担感に対する認識に男女差がみられます。

年代別回答割合

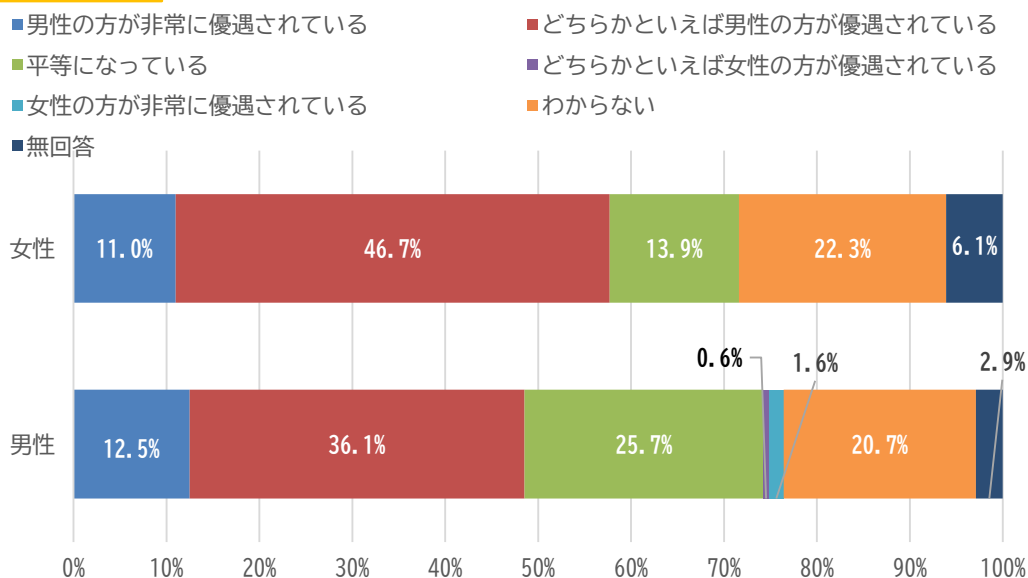


年代別でみると、18～39歳の若い世代で「平等」と感じている割合が比較的高くなっています。一方、40歳以上では、「男性優遇」と感じる割合が高い傾向がみられます。

家事・育児・介護などの家庭内役割を担っている、担ってきた世代ほど、男女差を実感しやすいことがうかがえます。

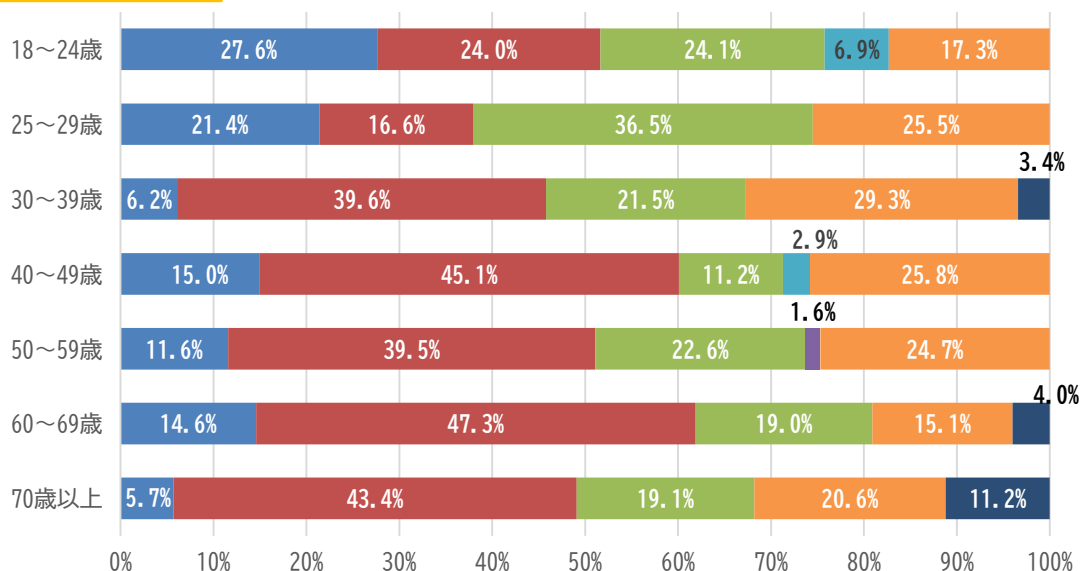
⑤議会や政治(意思決定)の場

性別回答割合



男女別でみると、女性では57.7%、男性では48.6%が「男性優遇」と感じており、女性の方が意思決定の場における男女差を強く認識しています。一方で、女性22.3%、男性20.7%が「わからない」と回答しており、政治分野への関心や情報に触れる機会の差も影響している可能性が考えられます。

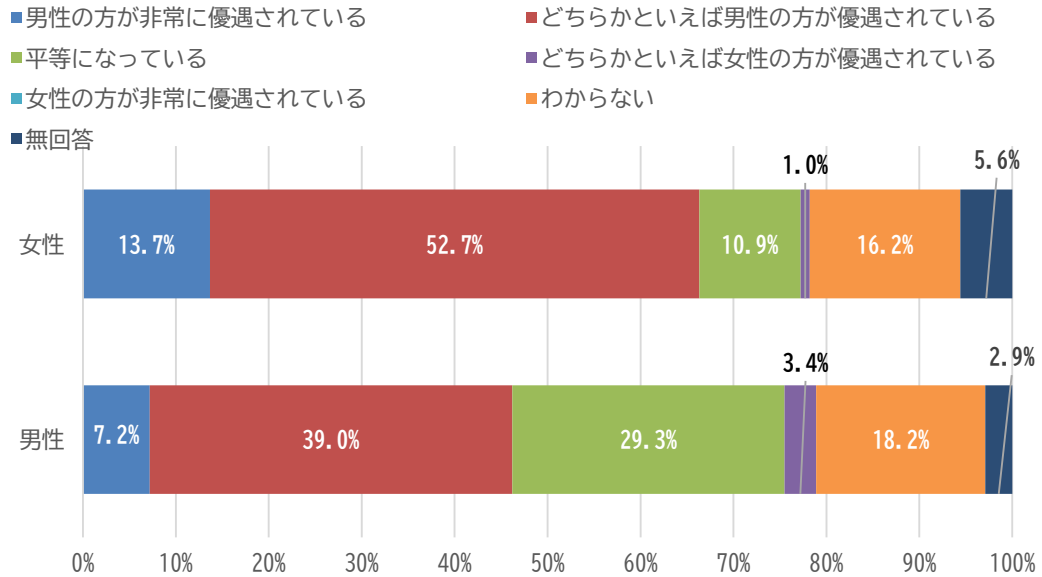
年代別回答割合



年代別でみると、18～24歳が最も「男性の方が非常に優遇されている」と感じており、若い世代ほど政治分野における男女格差への問題意識をもっている様子がうかがえます。

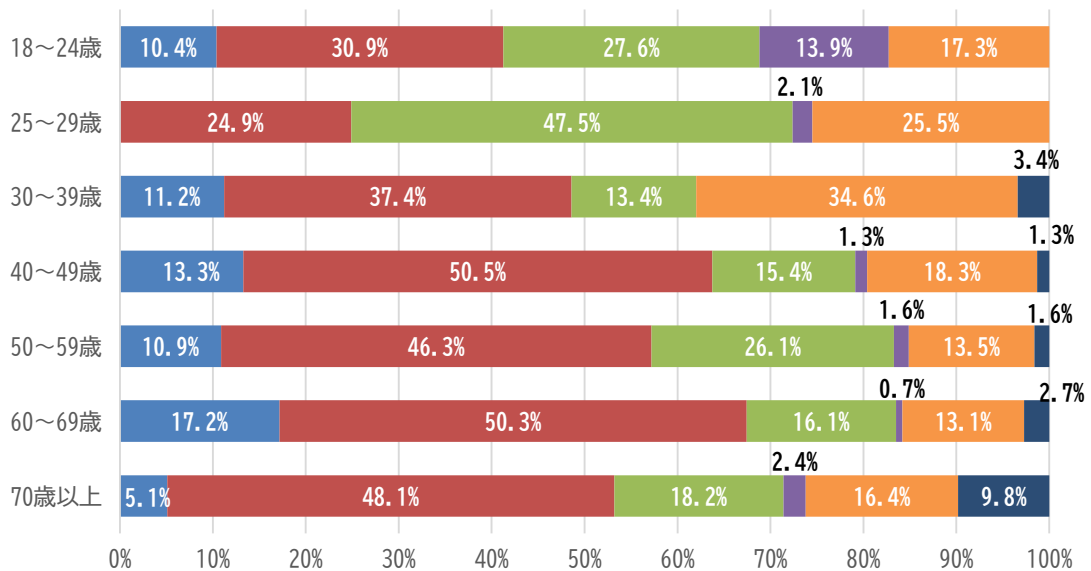
⑥社会通念やしきたり・慣習

性別回答割合



男女別でみると、女性では66.4%、男性では46.2%が「男性優遇」と感じており、問8の項目の中で最も男女差が大きくなっています。女性の方が、固定的な性別役割分担意識や地域の慣習の中に男女差を感じていることがうかがえます。

年代別回答割合

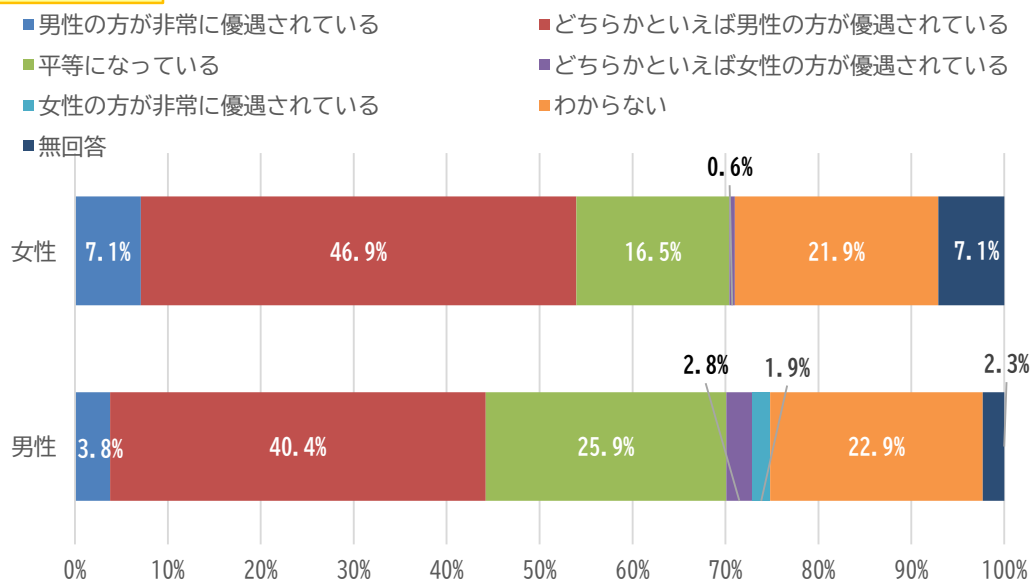


年代別でみると、「男性が優遇されている」と感じる割合が高かったのは、60～69歳で67.5%、続いて40～49歳の63.8%となっています。一方、25～29歳では「平等」との回答割合が比較的高く、世代によって社会慣習に対する受け止め方に違いがみられます。

特に、地域活動や家庭・職場における役割を担ってきた世代ほど、「社会通念やしきたり・慣習」において男女格差を実感している傾向がみられます。

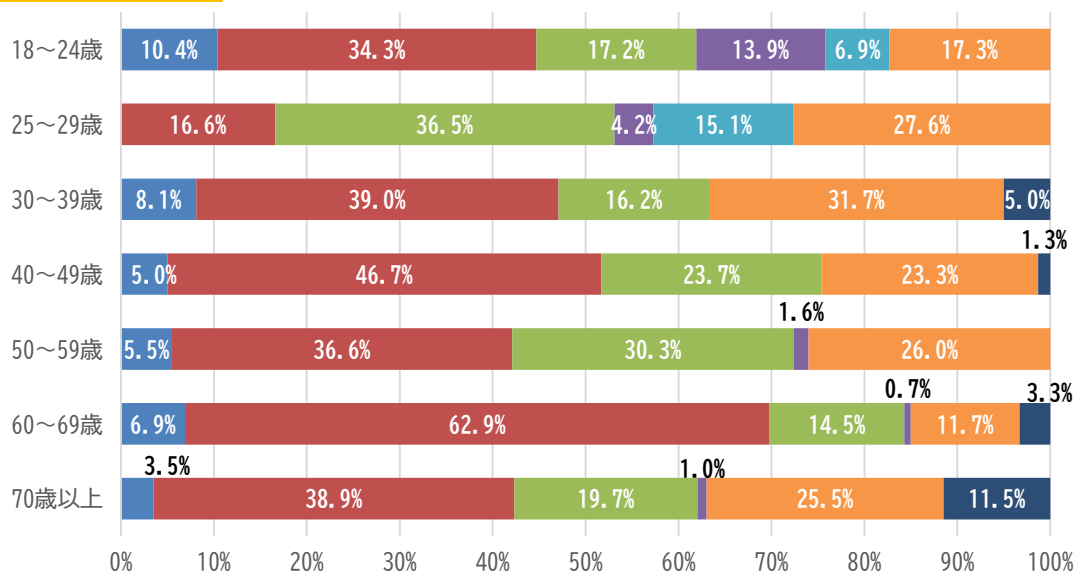
⑦社会全体

性別回答割合



男女別でみると、「男性が優遇されている」と感じている割合は、女性では54.0%、男性では44.2%となっており、社会全体においても女性の方が男女格差を認識している割合が高くなっています。一方で、男性では平等と感じる割合が25.9%と女性の16.5%より高くなっており、男女間で社会の現状認識に差がみられます。

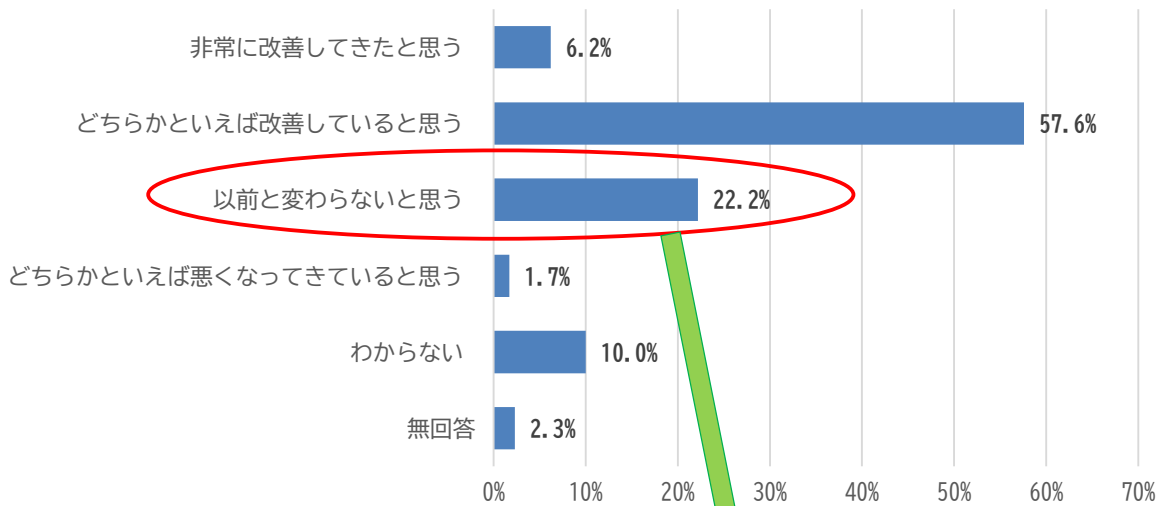
年代別回答割合



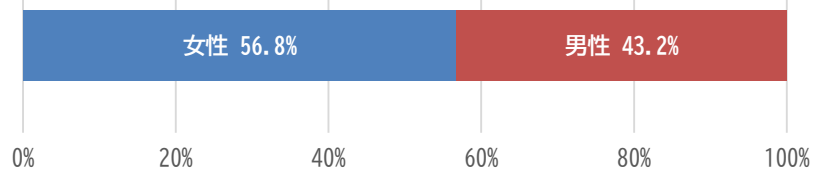
年代別でみると、「男性が優遇されている」と感じているのは、60～69歳が69.8%と特に高くなっています。一方、25～29歳では「平等」との回答割合が比較的高くなっています。⑥の社会通念やしきたり・慣習、と同じ傾向がみられます。社会全体に対する男女平等意識は世代によって異なっており、年代ごとの経験や価値観の違いが影響していると考えられます。

問9

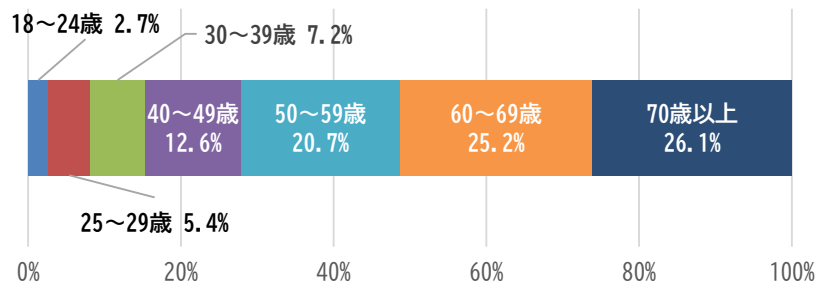
およそ5年前と比べて、女性に対する人権意識や地位は、どの程度改善してきたと思いますか。



「以前と変わらないと思う」性別回答割合



「以前と変わらないと思う」年代別回答割合

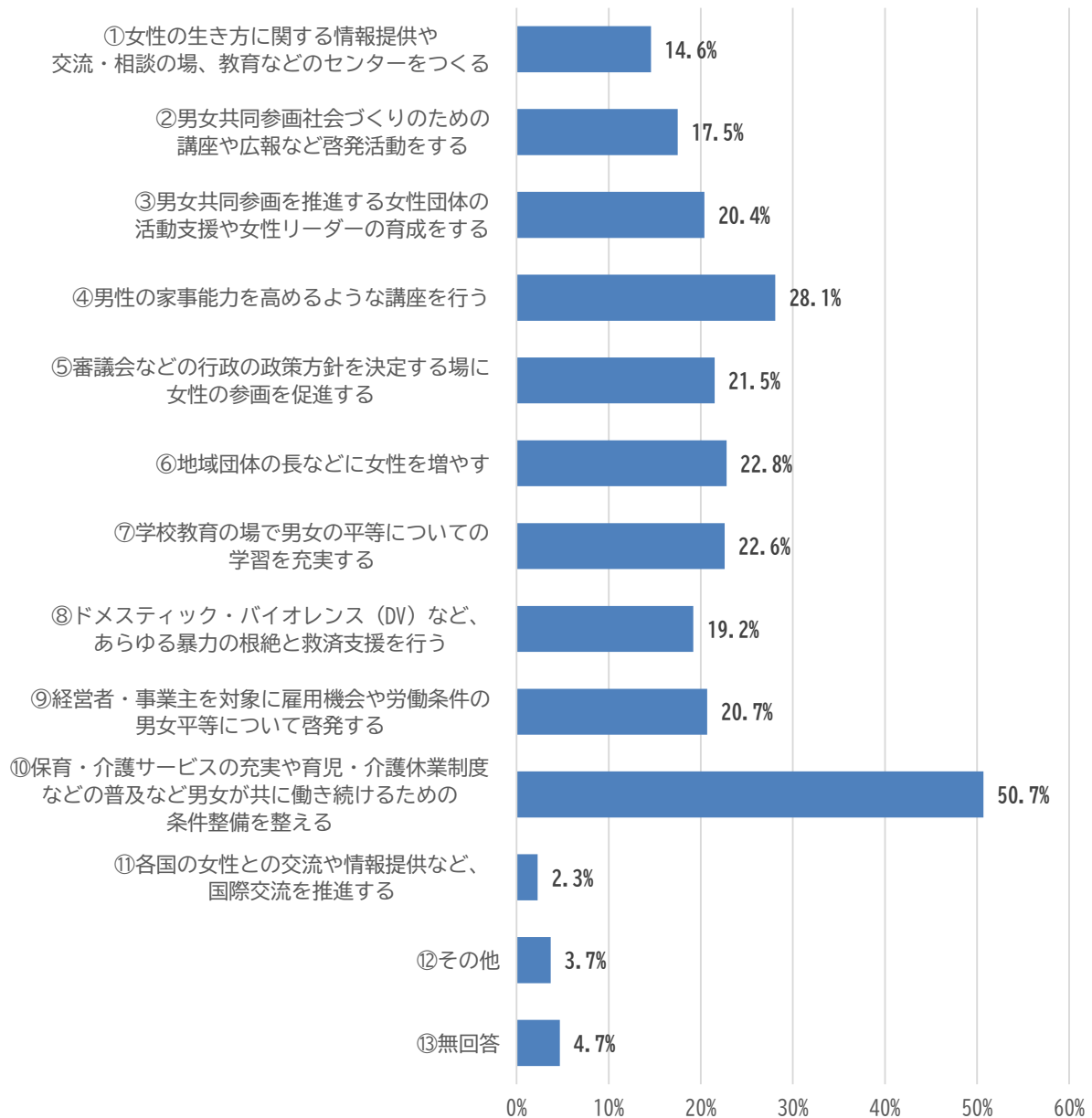


「非常に改善してきた」、「どちらかといえば改善している」との回答が63.8%と、男女共同参画の推進や社会意識の変化について、一定の成果が認識されていることがうかがえます。

一方で、「以前と変わらないと思う」との回答も22.2%あり、その性別回答割合では女性が多く、年代別回答割合見ると、年齢層が高いほど、多くなっています。

問10

男女共同参画を積極的に進めるために、今後、愛南町はどのようなことに力をいれていけば良いと思いますか。(回答は3つまで)

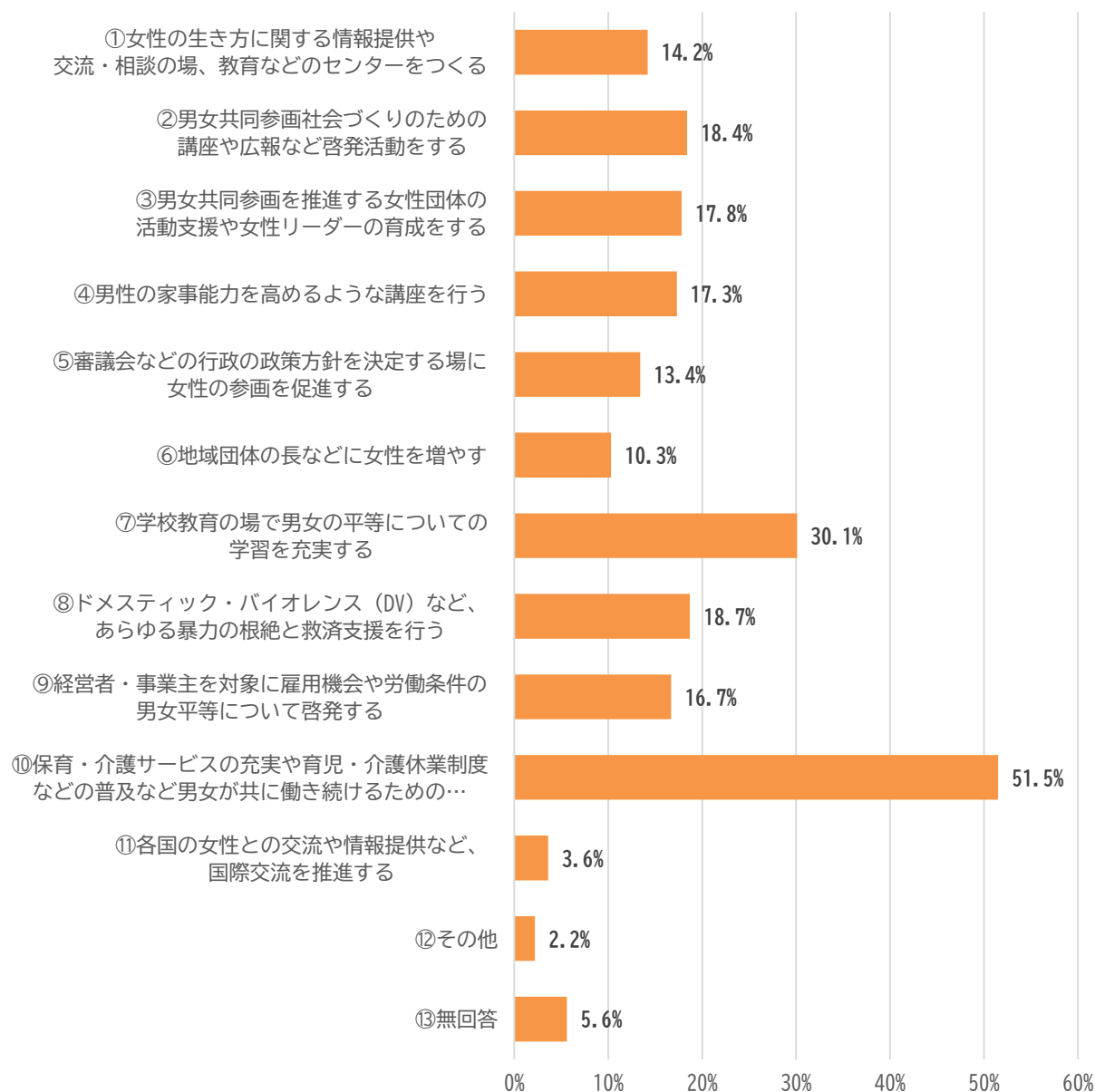


最も多かったのは、⑩「保育・介護サービスの充実や育児・介護休業制度などの普及～」50.7%で、半数を占めており、④「男性の家事能力を高める」28.1%が続きます。意識啓発だけでなく、実際に仕事と家庭を両立できる環境整備、家庭内役割分担の見直しなど、実生活に直結する支援を求めていると考えられます。

ほか、⑥「地域団体の長などに女性を増やす」22.8%、⑦「学校教育の場での学習の充実」22.6%、⑤「審議会などの女性参画を促す」21.5%、⑨「経営者・事業主を対象に啓発」20.7%なども2割以上となっており、家庭・地域・職場・教育の各分野で総合的な取組みが求められていることがうかがえます。

◇問10について令和2(2020)年の調査と比較します

<5年前調査結果>

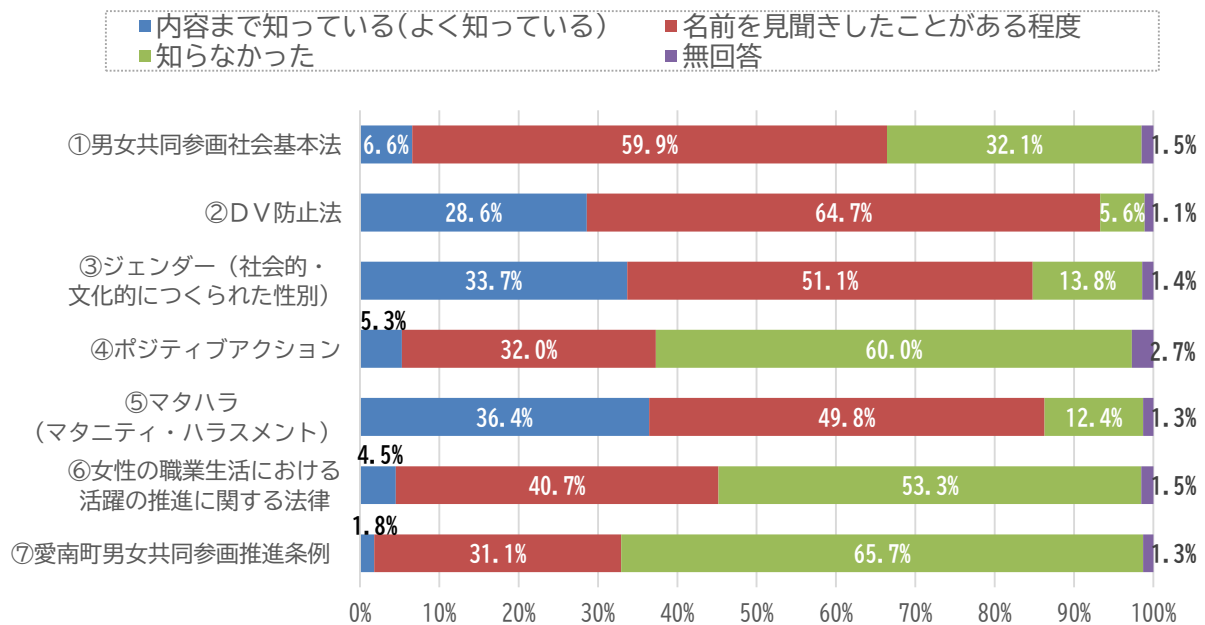


問10の男女共同参画の推進に必要な施策については、前回調査、今回調査ともに⑩「保育・介護サービスの充実や育児・介護休業制度の普及～」が最も高く、町民のニーズが一貫して高いことがうかがえます。

一方、今回調査では④「男性の家事能力を高める」が上位に入り、男性の家庭参画への期待の高まりがうかがえます。また、⑧「DV等への暴力根絶と救済支援」も前回より増加しており、男女共同参画を推進するうえで、安全・安心な生活環境の整備を重視する意識が高まっていることがうかがえます。

問11

あなたは、次にあげる用語の意味をご存じでしたか。

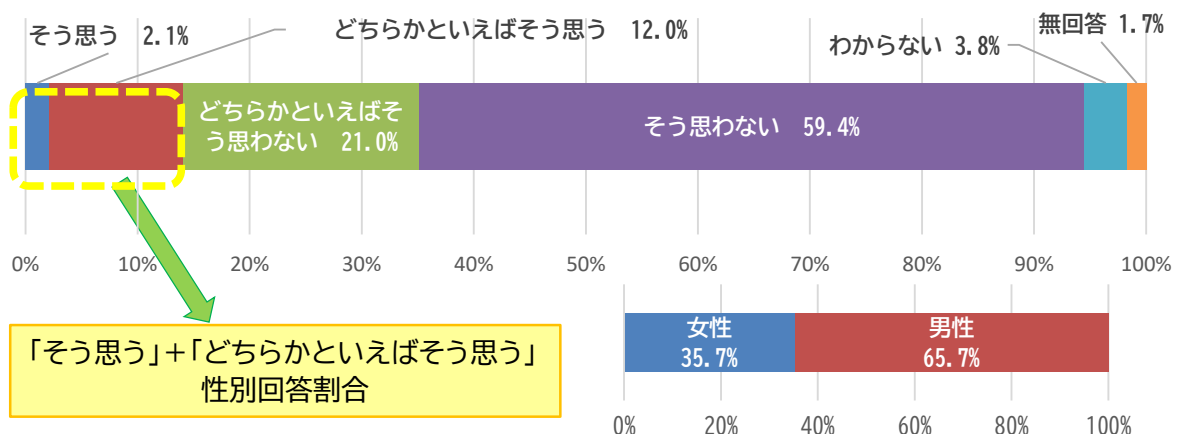


②DV防止法、③ジェンダー、⑤マタハラは比較的認知度が高いですが、一方で、④ポジティブアクション、⑥女性活躍推進法、⑦愛南町男女共同参画推進条例は、「知らなかった」が半数以上となっています。特に、⑦愛南町男女共同参画推進条例は、65.7%が「知らなかった」と回答しており、町の取り組みや制度について、さらなる周知啓発が必要と言えます。

3 家庭生活における男女共同参画について

問12

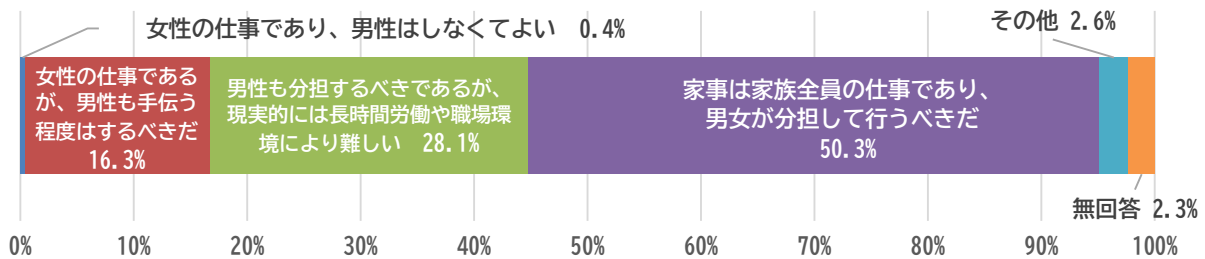
あなたは、結婚と家庭に関して「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」(男は仕事、女は家庭)という考え方について、どのように思いますか



「そう思わない」、「どちらかといえばそう思わない」が80.4%と否定的回答が大半を占めています。特に「そう思わない」59.4%が最も高く、従来の性別役割分担に対する否定的な考え方が浸透していると考えられます。一方で、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」という肯定的回答も14.1%存在しています。依然として、従来からの役割分担意識が残っていると考えられます。肯定的回答の性別回答割合をみると、男性が多くなっており、男性に特にその意識が強が残っていることがうかがえます。

問13

家庭内の家事・育児・介護の分担について、あなたの考えに近いものを次の中から一つ選んでください



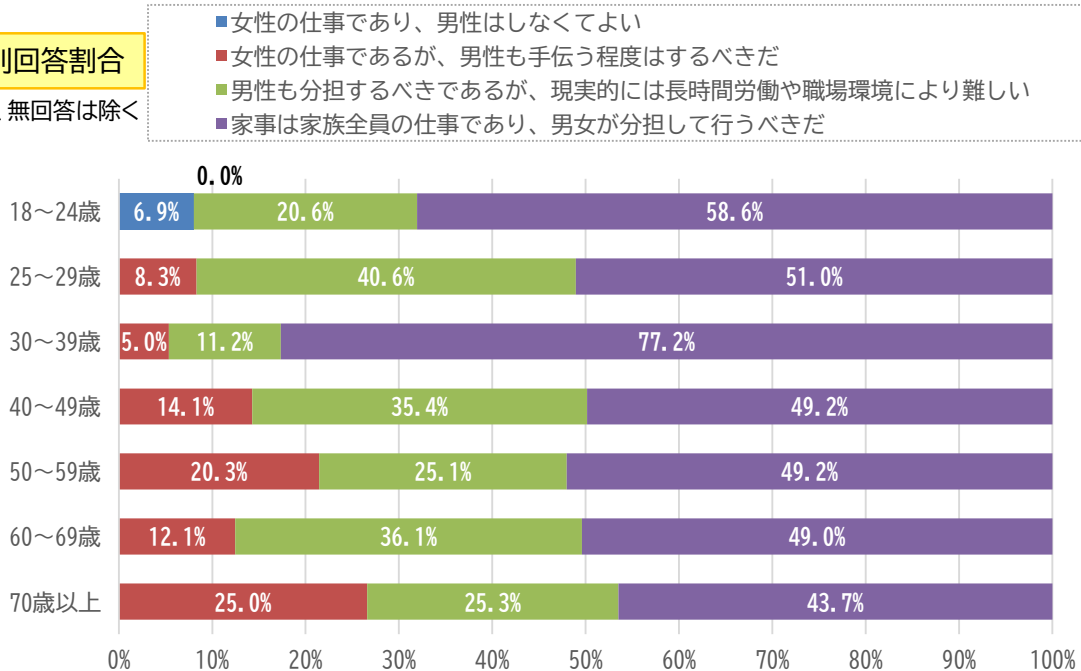
「家事は家族全員の仕事であり、男女が分担して行うべき」が50.3%と最も多く、家庭内の役割を男女で協力して担うべきという意識が広がっていることがうかがえます。

一方、「男性も分担するべきであるが、現実的には長時間労働や職場環境により難しい」とする回答も28.1%占めており、役割分担に対する意識は変化しているものの、実際には就労環境等が家事・育児への参画を妨げる要因となっていることが示唆されます。

また、「女性の仕事であるが、男性も手伝う程度はするべき」も16.3%あり、固定的な性別役割分担意識が一定程度残っていることがうかがえます。

年代別回答割合

※その他、無回答は除く

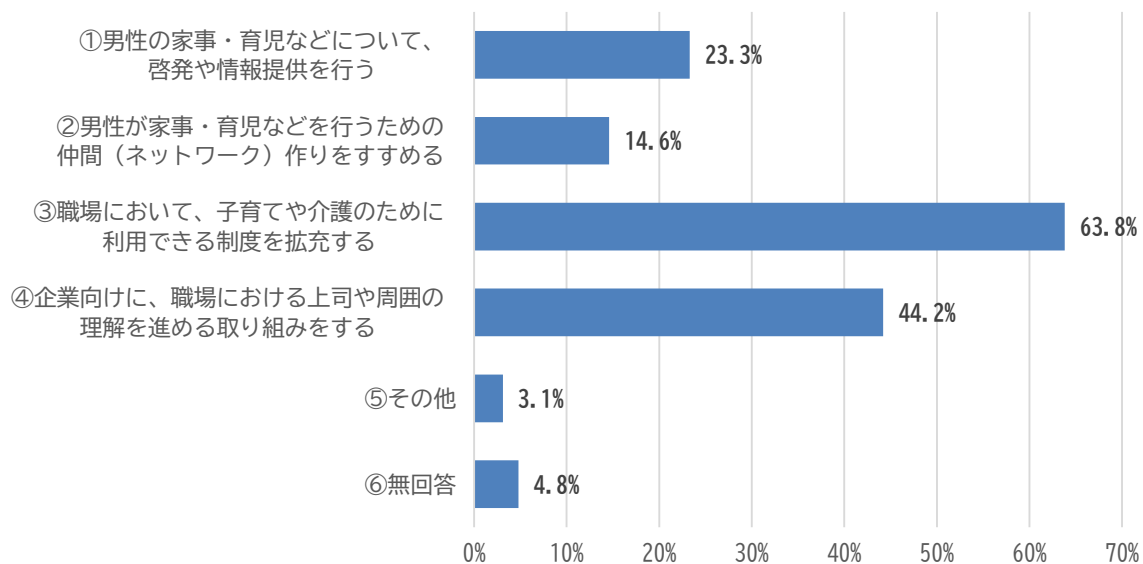


年代別で見ると、30～39歳は、「家族全員の仕事で男女が分担」が77.2%と突出しています。子育て世代が多いとされる年代であるため、「夫婦で協力するのが当たり前」という意識が強いことがうかがえます。

70歳以上では、「家族全員の仕事で男女が分担」が43.7%と全世代で最も低く、また、「女性の仕事であるが男性も手伝う」が25.0%とこちらも全世代で最も高くなっており、高齢世代ほど『家事は女性中心』という考えが残っていることがうかがえます。

問14

今後、男性が女性とともに家事、子育てや教育、介護に積極的に参加していくためには愛南町はどのようなことに取り組むべきだと思いますか(回答は2つまで)



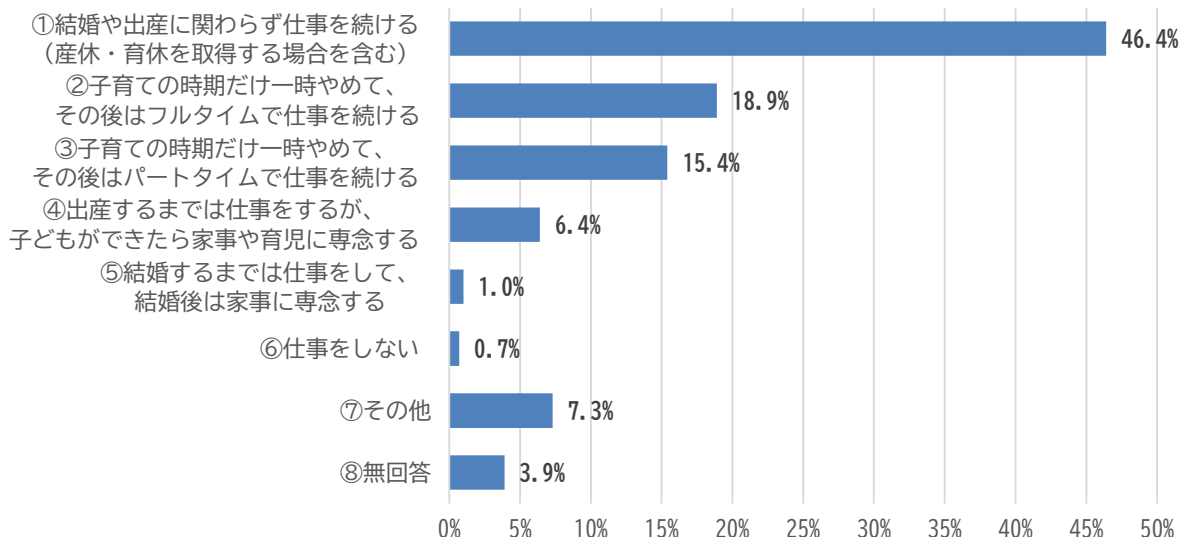
③「職場において、子育てや介護のために利用できる制度を拡充する」が、63.8%と最も高く、④「企業向けに、職場における上司や周囲の理解を進める取り組みをする」が44.2%と続きます。

男性の家事・育児・介護参加促進のためには、個人への啓発よりも、職場における制度整備や職場の理解促進を求める意見が多く、働き方改革や企業への働きかけが重要であることがうかがえます。

4 職業における男女共同参画について

問15

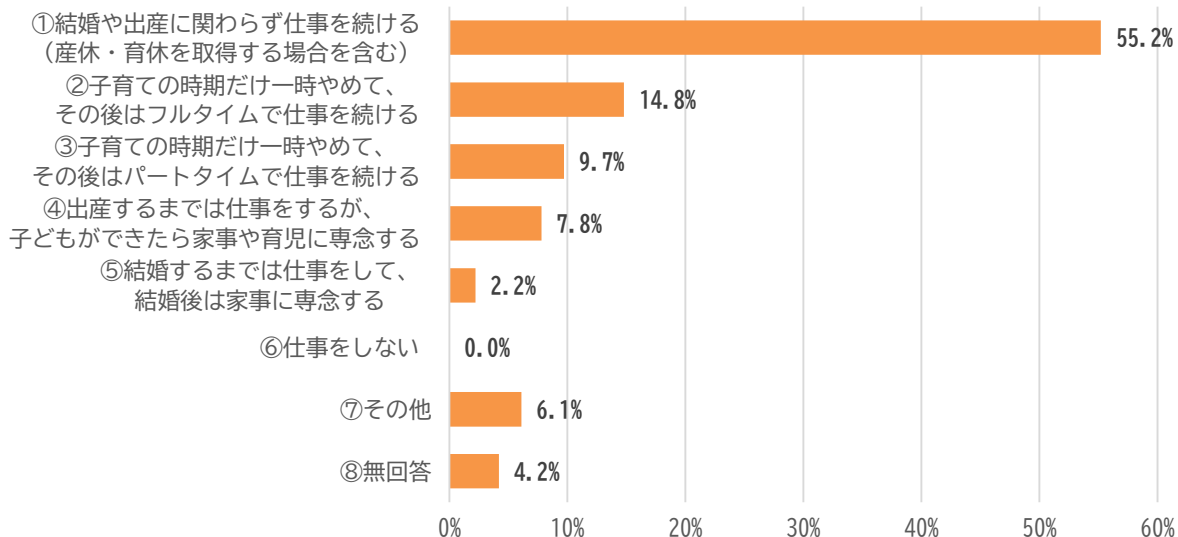
女性の働き方についておたずねします。あなたが、女性の望ましい働き方だと思うのはどれですか



①「結婚や出産に関わらず仕事を続ける」が46.4%と最も高く、②「子育て後フルタイム復帰」18.9%、③「子育て後パート復帰」15.4%が続きます。⑤「結婚後は家庭に専念」、⑥「仕事をしない」という回答は非常に少なく、女性の就業継続に対する意識の高まりがみられます。

◇問15について令和2(2020)年の調査と比較します

<5年前調査結果>



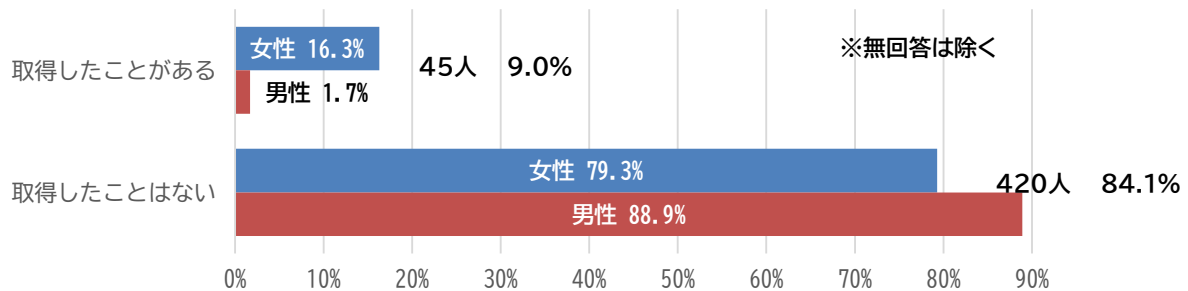
問15の女性の望ましい働き方については、前回調査、今回調査ともに①「結婚や出産に関わらず仕事を続ける」が最も高かったものの、前回調査から、8.8ポイント低下しています。

一方、②「子育て後フルタイム復帰」、③「子育て後パート復帰」がいずれも増加しています。女性の就業継続を支持する意識は依然として高いものの、育児の負担を考慮しながら働き方を選択する考え方が広がっていることがうかがえます。

問16

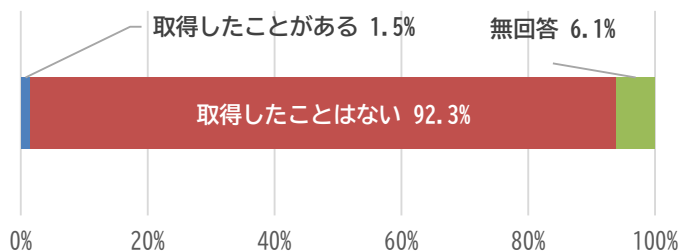
あなたは、これまでに育児休業(産休を除く)や介護休業を取得したことがありますか

①育児休業(産休を除く)



育児休業取得経験は、女性に比べ男性で著しく低く、男性の育児休業取得が十分に進んでいない状況がうかがえます。

②介護休業

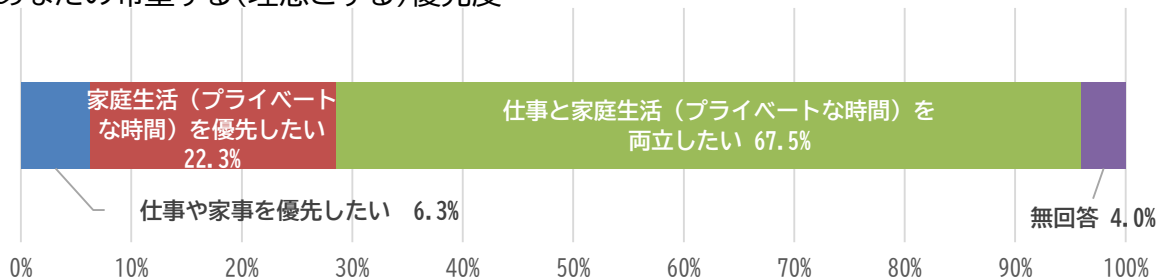


介護休業取得経験は、全体で1.5%にとどまっており、介護休業制度そのものの利用経験が非常に少ないことが分かります。

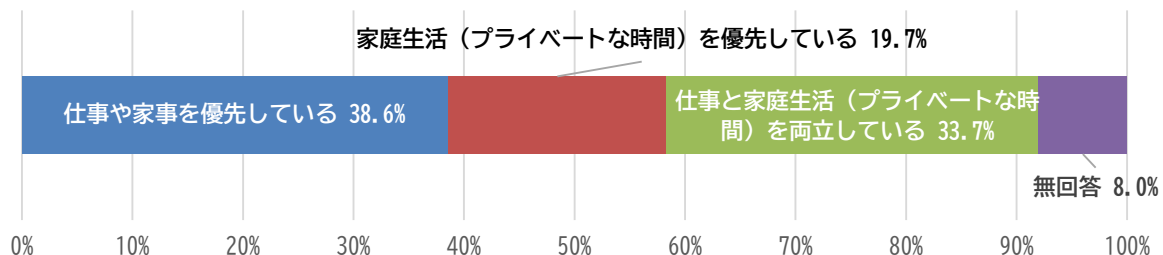
問17

日常生活における、「仕事や家事」「家庭生活(プライベートな時間/趣味や学習・地域活動・付き合いなど)」のバランスについて

①あなたの希望する(理想とする)優先度



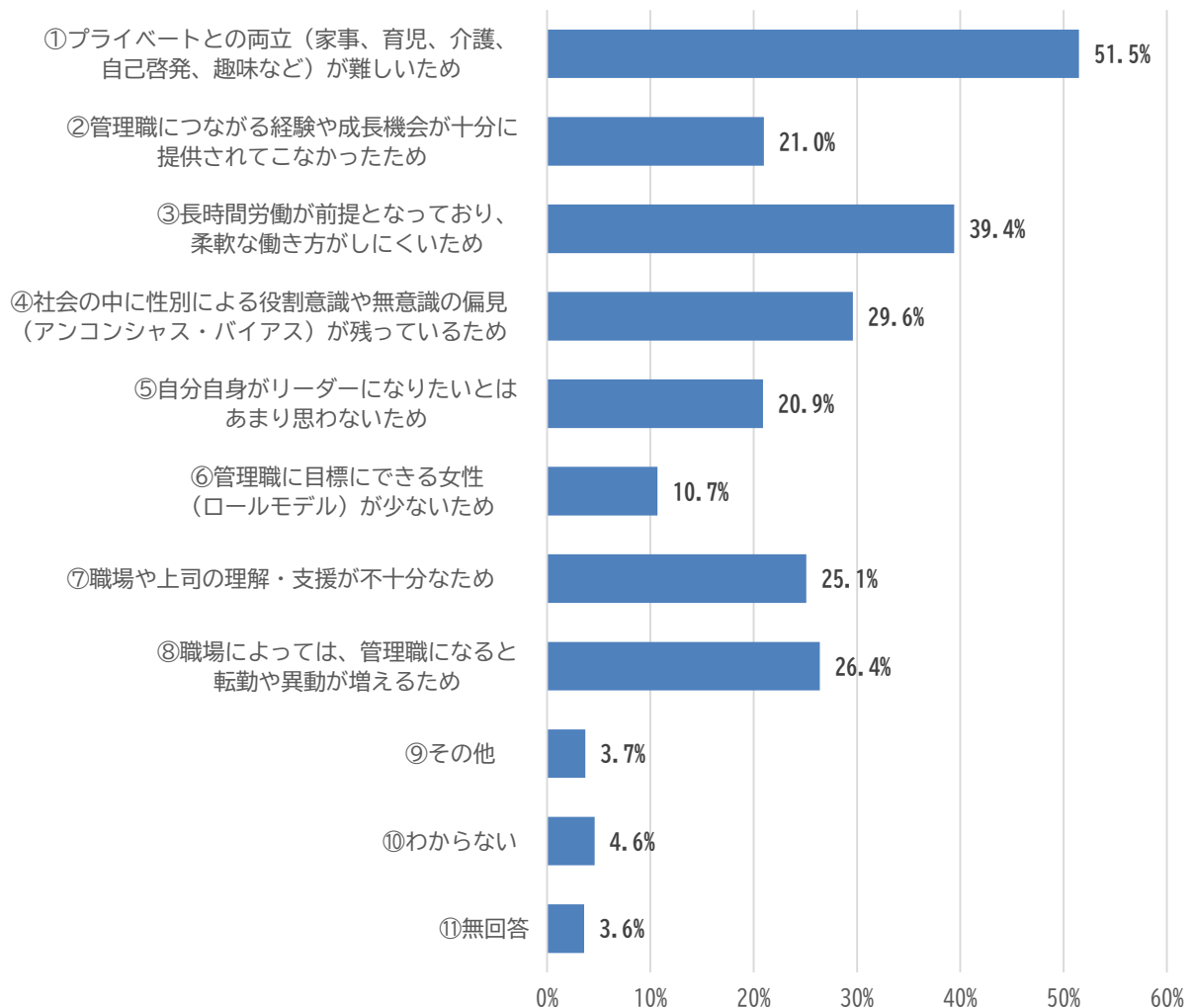
②実際の(現実の)優先度



理想では、67.5%と多くが、仕事と家庭生活の両立を望んでいますが、実際に両立できている人は、33.7%しかいません。一方、仕事や家事を優先している人が38.6%おり、理想と現実には大きなギャップがみられます。特に、仕事や家事を優先せざるを得ない状況がみられます。ワーク・ライフ・バランス実現に向けた課題がうかがえます。

問18

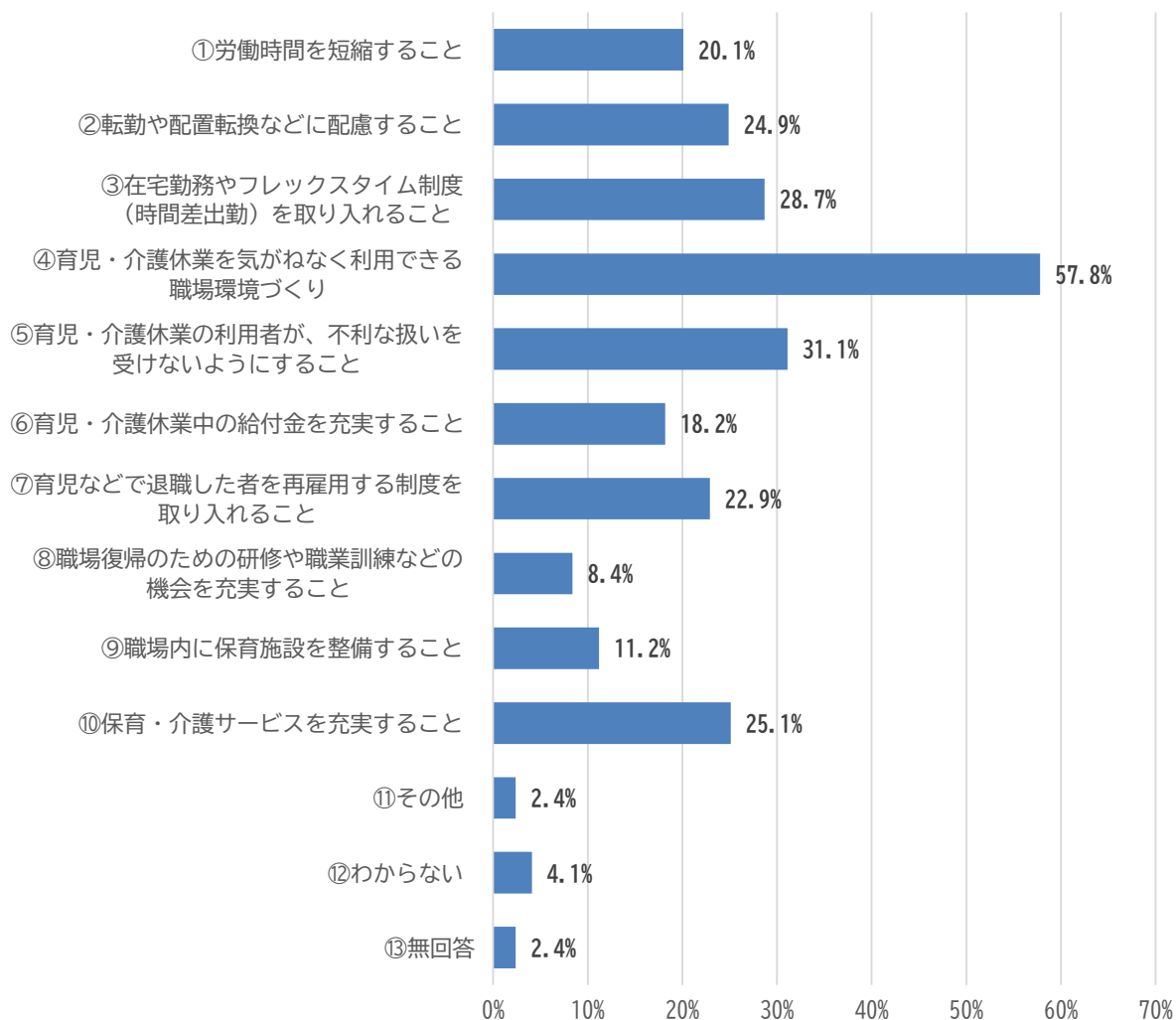
あなたは、管理職(部下を指揮・管理する役割)に女性が増えない主な理由は何だと思えますか(回答は3つまで)



①「プライベートとの両立が難しい」51.5%が一番高く、③「長時間労働が前提」39.4%、④「社会の中に性別による役割意識や無意識の偏見」29.6%と続きます。個人の能力不足ではなく、職場環境や社会意識などが課題だと考えられています。

問19

男女がともに、仕事と家庭の両立をし続けるためには、特にどのようなことが必要だと思いますか(回答は3つまで)

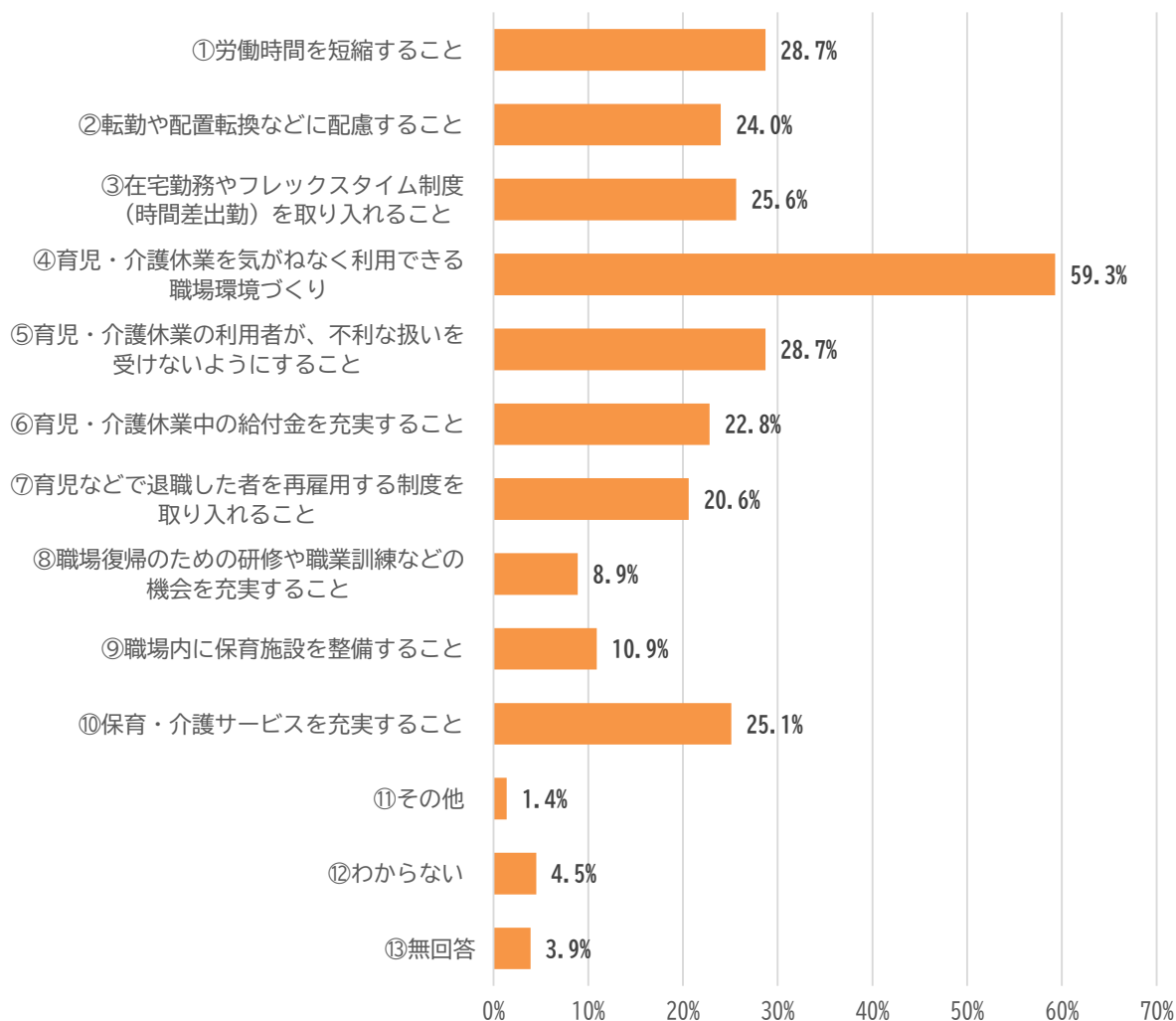


④「育児・介護休業を気兼ねなく利用できる職場環境づくり」57.8%が一番高く、⑤「育休等利用者への不利益防止」31.1%、③「在宅勤務やフレックス制度の導入」28.7%と続きます。

仕事と家庭を両立するためには、休業制度を利用しやすい職場環境づくりが最も重要と考えられており、制度だけでなく、利用しやすい職場風土の整備が求められています。

◇問19について令和2(2020)年の調査と比較します

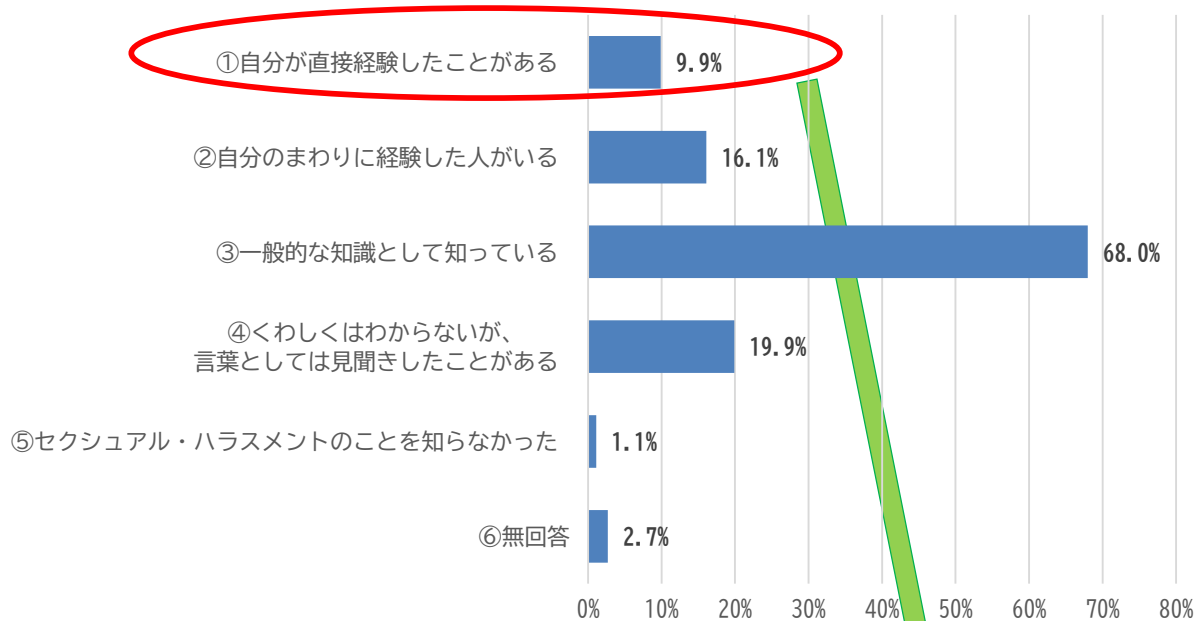
<5年前調査結果>



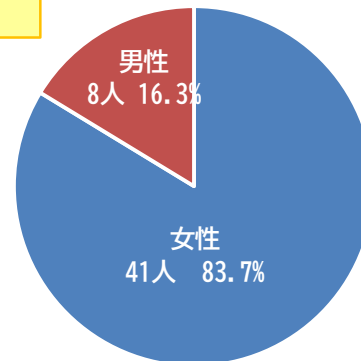
問19の仕事と家庭の両立に必要な施策については、前回調査、今回調査ともに④「育児・介護休業を気兼ねなく利用できる職場環境づくり」が最も高く、両立支援において職場風土の改善が重要と一貫して考えられていることがうかがえます。また、⑤「育児・介護休業利用者が不利益な扱いを受けないこと」は前回より増加しており、制度利用後の処遇改善への関心が高まっています。一方、①「労働時間の短縮」は減少し、③「在宅勤務やフレックスタイム制度導入」は増加していることから、働き方改革に対するニーズが、労働時間の削減から柔軟な働き方の実現へと変化していることがうかがえます。

問20

セクシュアル・ハラスメントが近年問題になっていますが、あなたは、身近でセクシュアル・ハラスメントを経験したり、見聞きしたりしたことがありますか(複数回答)



①「自分が経験したことがある」
性別回答割合



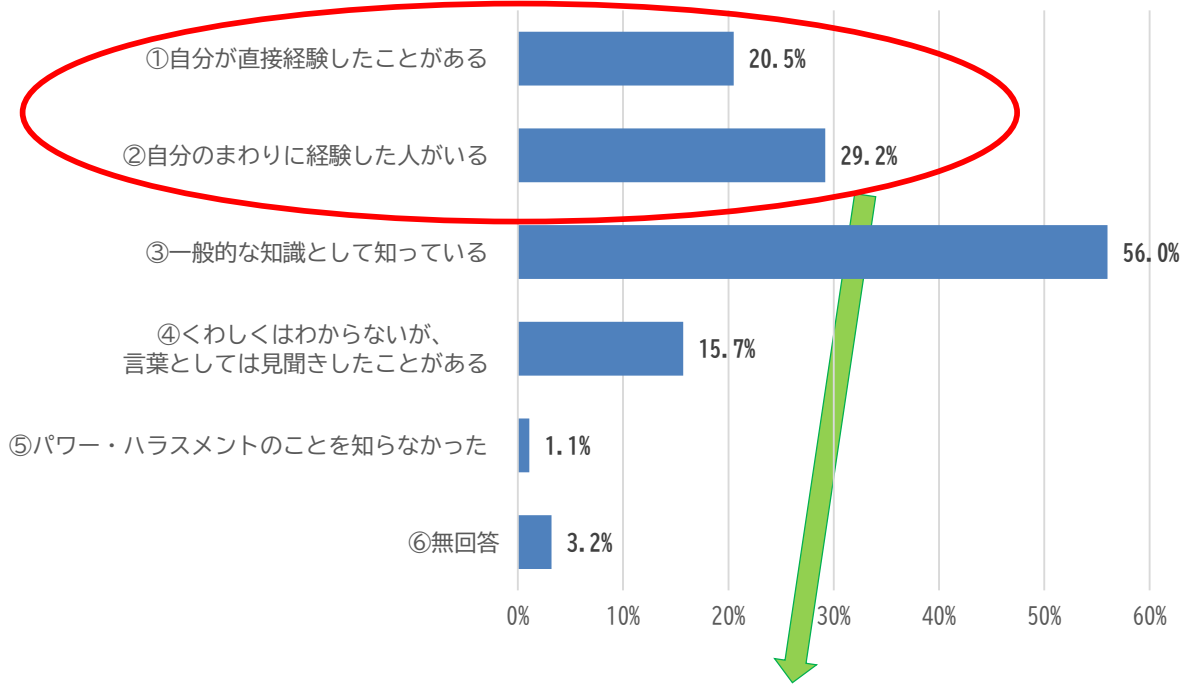
68.0%が③「知っている」と回答しています。

①「自分が経験したことがある」、②「周囲に経験した人がある」も、あわせて26.0%の回答がありました。また、①「自分が経験したことがある」方の性別回答割合をみると、女性が83.7%と男性を大きく上回っています。

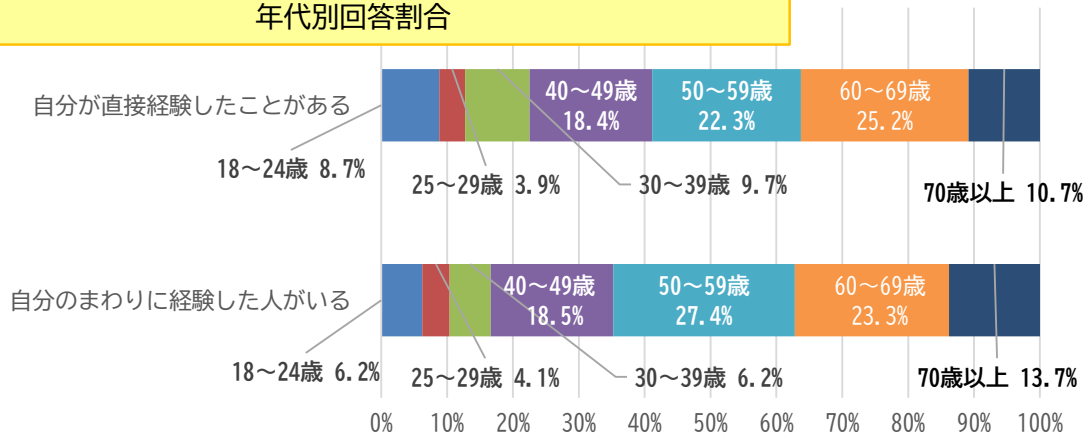
セクシュアル・ハラスメントについては、多くの人が一般的な知識として認知している一方、女性では直接経験した割合が男性より高く、身近な問題としてとらえられていることがうかがえます。

問21

あなたは、身近でパワー・ハラスメントを経験したり、見聞きしたりしたことがありますか(複数回答)



①「自分が経験したことがある」、②「自分の周りに経験した人がある」
年代別回答割合



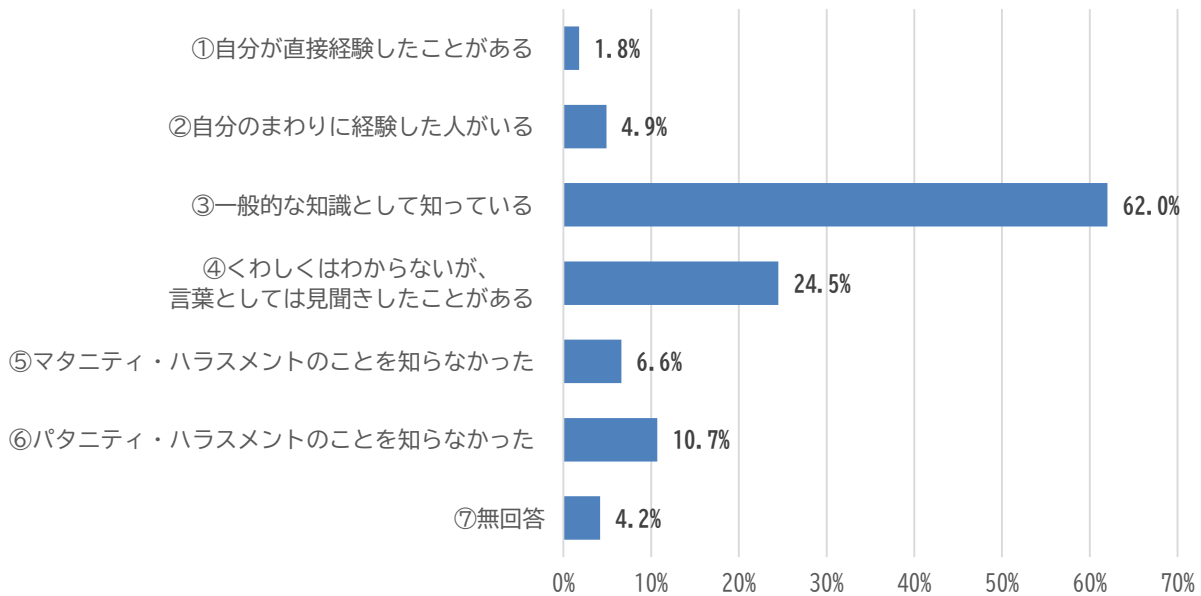
56.0%が③「知っている」と回答しています。

①「自分が経験したことがある」が20.5%、②「周囲に経験した人がある」29.2%となっています。その年代別割合をみると、40~60代が高くなっています。

問20の「セクシュアル・ハラスメント」に比べて、直接や周囲に経験した方が多くっており、ハラスメントの中でも、最も身近に感じられているものの一つと考えられます。

問22

あなたは、身近でマタニティ・ハラスメントやパタニティ・ハラスメントを経験したり、見聞きしたりしたことがありますか(複数回答)



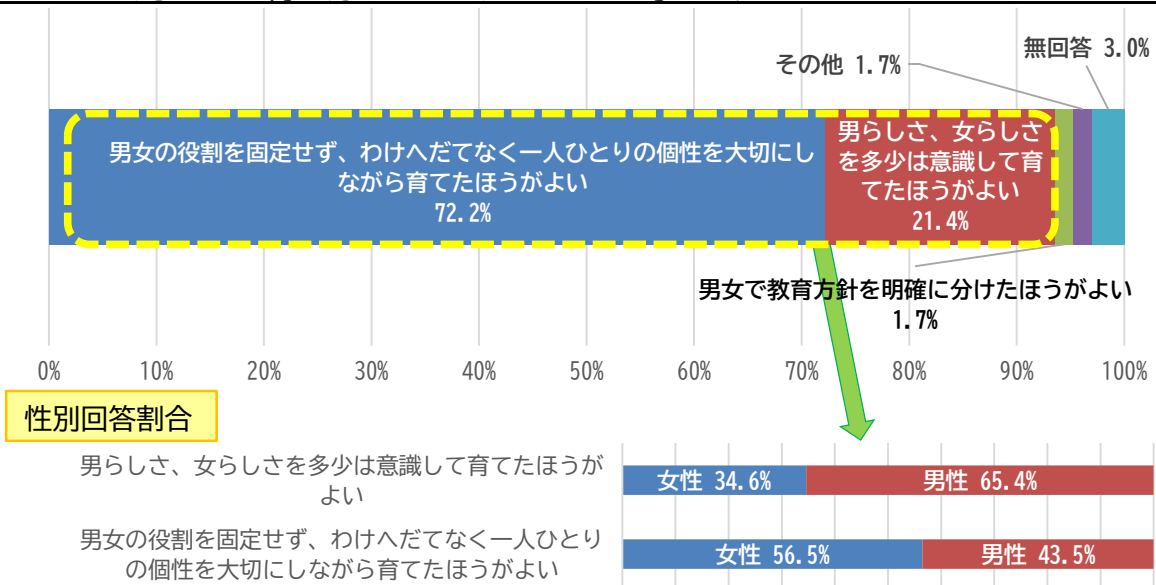
「マタニティ・ハラスメント」と「パタニティ・ハラスメント」については、一定程度認知されているものの、直接経験した割合は低く、「セクシュアル・ハラスメント」や「パワー・ハラスメント」と比べると、身近な問題として認識されている割合は低いようです。

①「自分が直接経験したことがある」と回答したのは、9人で全て女性となっています。

5 学びの場における男女共同参画について

問23

あなたは、子どもの育て方について、どのように考えますか

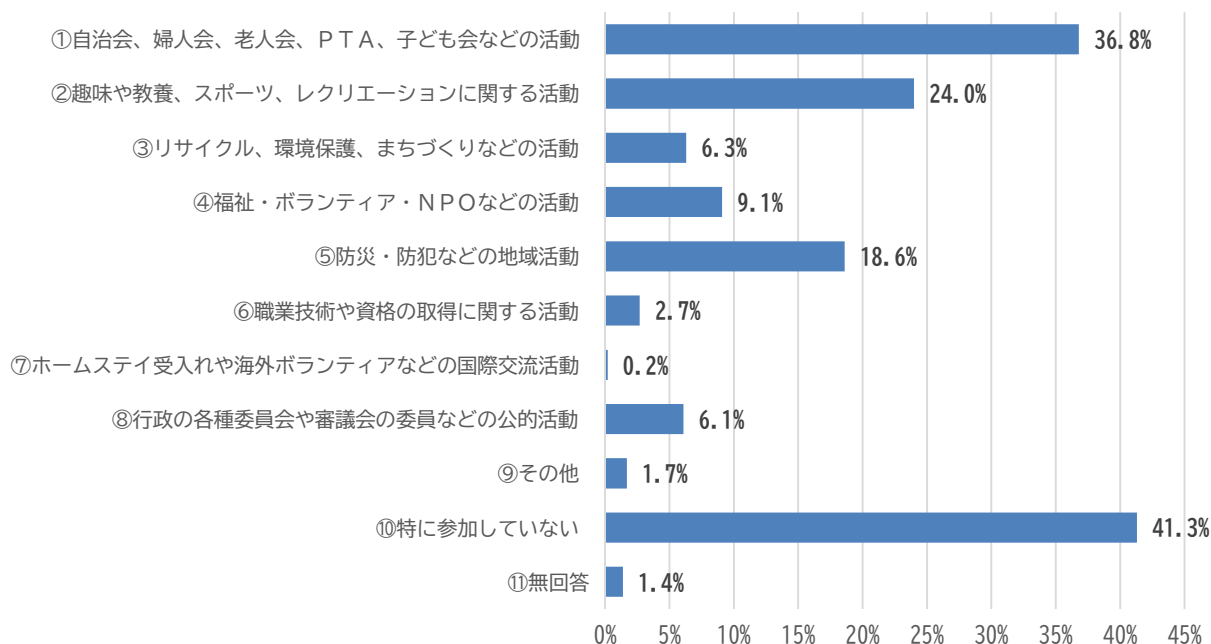


子どもの育て方については、「男女の役割を固定せず、一人ひとりの個性を大切にしながら育てたほうがよい」が72.2%となっており、固定的な性別役割意識にとらわれない子育てへの支持が多数を占めています。性別割合で見ると、男性の方が、「男らしさ、女らしさを多少は意識して育てたほうがよい」、女性の方が「一人ひとりの個性を大切に育てたほうがよい」の割合が高くなっており、女性の方が固定的な性別役割意識にとらわれない子育てを支持していることがわかります。

6 地域活動への参加について

問24

あなたは、次のような地域活動に参加していますか(複数回答)

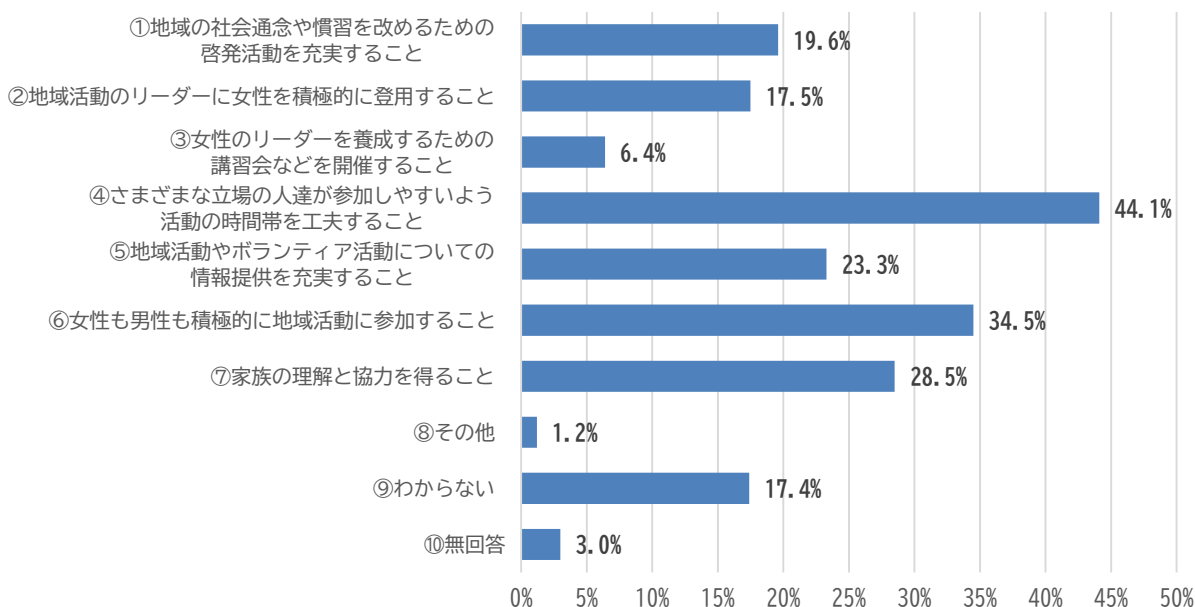


⑩「特に参加していない」方が41.3%と一番高くなっています。

続いて①「自治会等の活動」36.8%、②「趣味やスポーツ活動」24.0%、⑤「防災・防犯活動」18.6%と続いています。

問25

あなたの住んでいる地域でのさまざまな活動において、男女共同参画を積極的に進めるためには、どのようなことが必要だと思いますか(回答は3つまで)



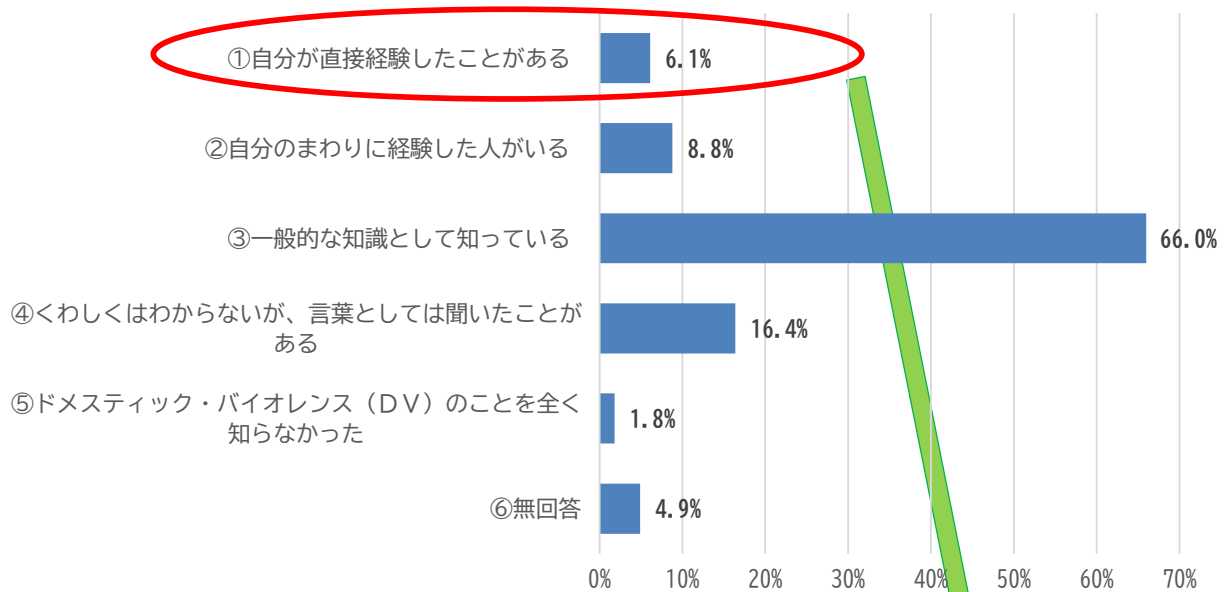
④「活動の時間帯を工夫する」が44.1%と一番高く、⑥「女性も男性も積極的に地域活動に参加」34.5%、⑦「家族の理解と協力を得る」28.5%が続きます。

制度や意識改革だけでなく、参加しやすい環境づくりが重要と考えられていることがうかがえます。

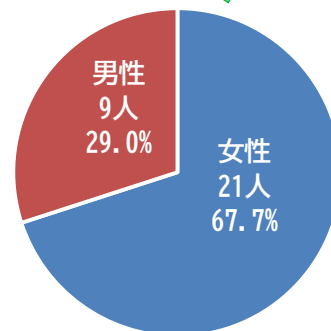
7 ドメスティック・バイオレンス(DV)について

問26

あなたは、ドメスティック・バイオレンス(DV)について経験したり、見聞きしたりしたことがありますか(複数回答)



①「自分が経験したことがある」
性別回答割合

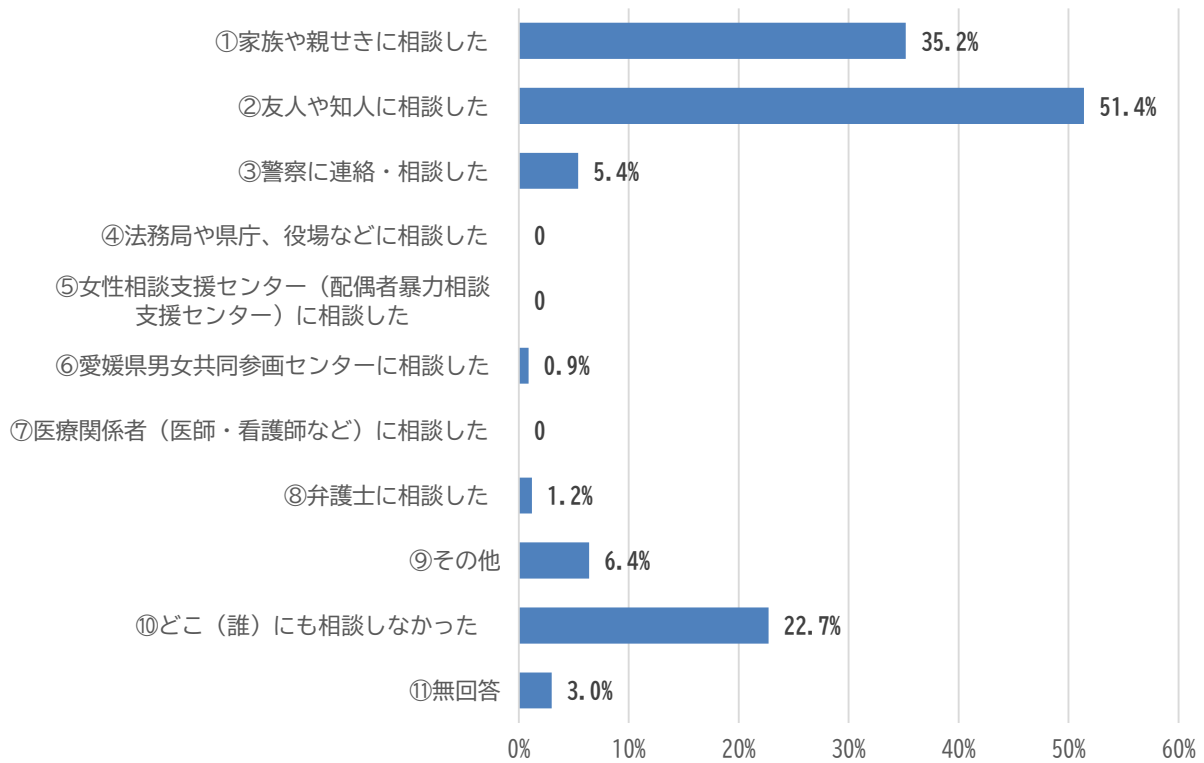


ドメスティック・バイオレンスについては、③「知っている」が66.0%と一定程度認知されています。

一方、直接経験した方の性別回答割合をみると、女性が男性を上回っており、女性にとって、より深刻な課題となっていることがうかがえます。

問27

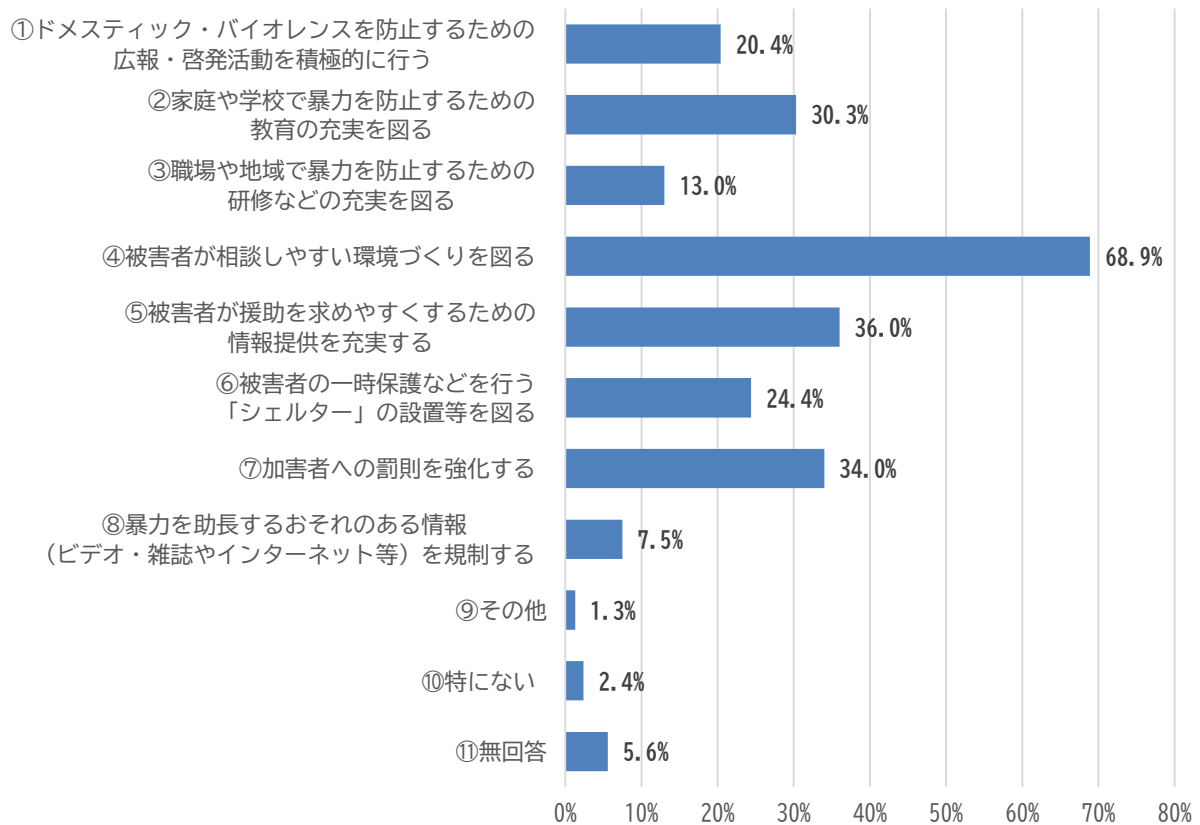
[問26で1または2と回答した方]あなたは、経験したことや見聞きしたことを、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか(複数回答)



相談先として一番多いのは②「友人・知人」51.4%で、続いて①「家族・親せき」35.2%となっており、身近な人への相談が中心となっています。
公的機関への相談は極めて少なく、また、⑩「どこ（誰）にも相談しなかった」方も22.7%おり、相談しやすい環境づくりが求められています。

問28

ドメスティック・バイオレンス(DV)を防ぐためには、今後、どのような取組が必要だと思いますか(回答3つまで)

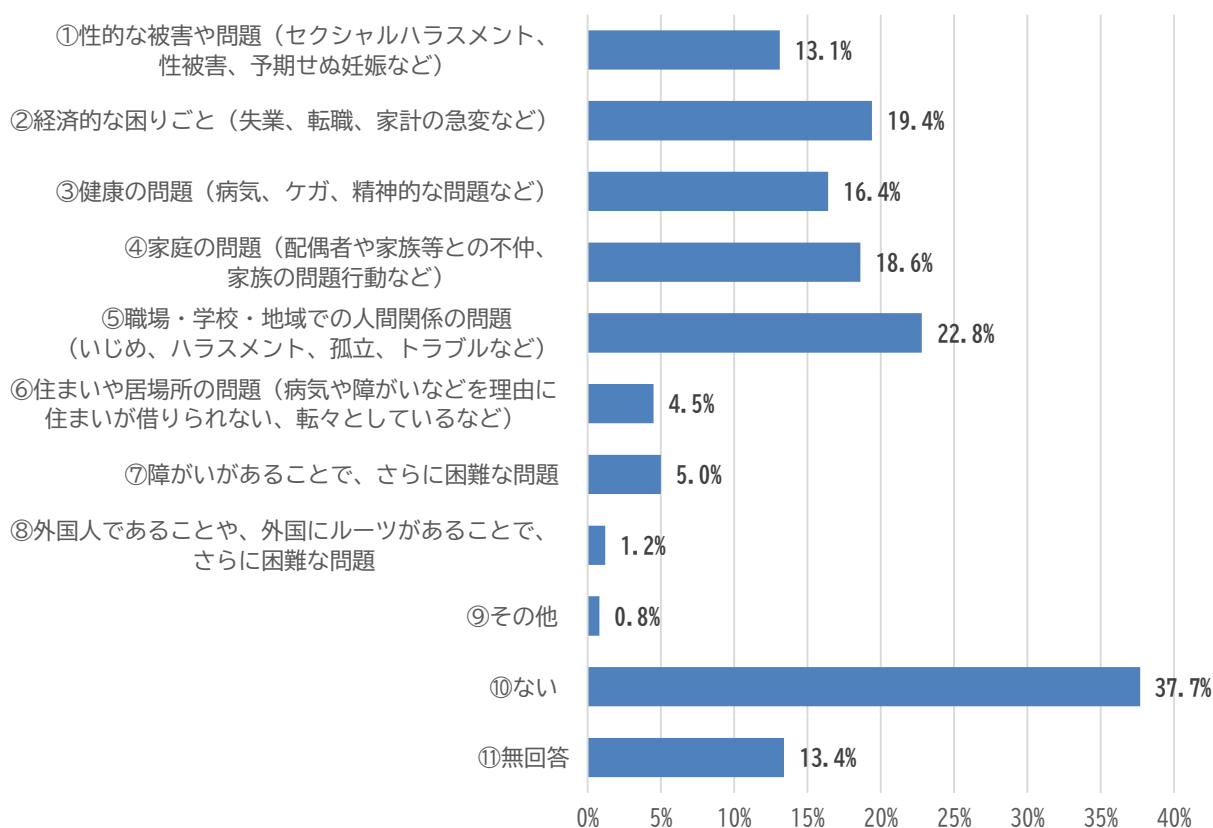


④「被害者が相談しやすい環境づくり」68.9%が突出して多くなっています。続いて⑤「情報提供の充実」36.0%、⑦「加害者への罰則の強化」34.0%となっています。DV防止のためには、相談しやすい環境づくりが最も求められており、被害者支援体制への強化への期待も高くなっています。

8 困難な問題を抱える女性への支援について

問29

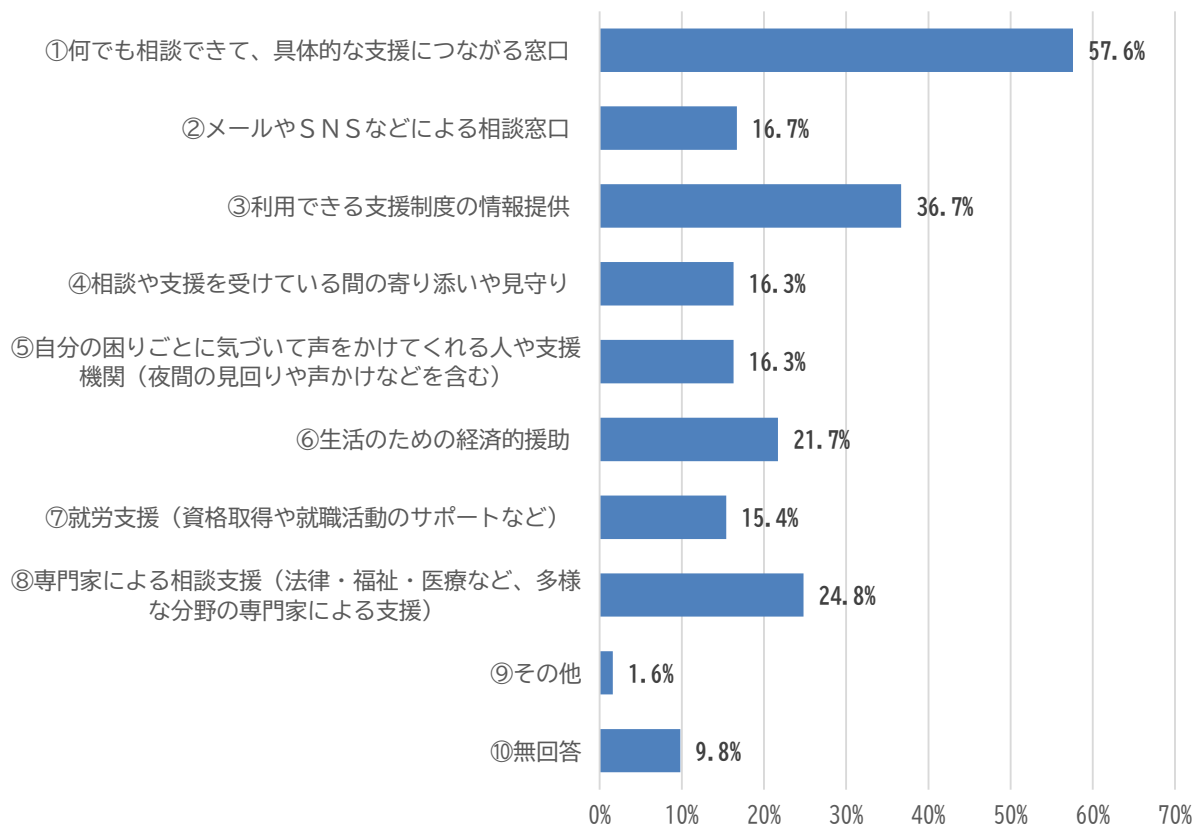
あなたは、女性であることを理由に、問26のDV以外で以下のような困難な問題を経験したり、見聞きしたことがありますか(複数回答)



女性が経験する困難としては、⑤「人間関係」22.8%や②「経済的問題」19.4%、④「家庭の問題」18.6%が比較的多く挙げられています。一方で⑩「経験していない」とする回答も37.7%あります。

問30

問29のような困難な問題を解決するために、どのような支援や環境があればよいと思いますか(回答3つまで)

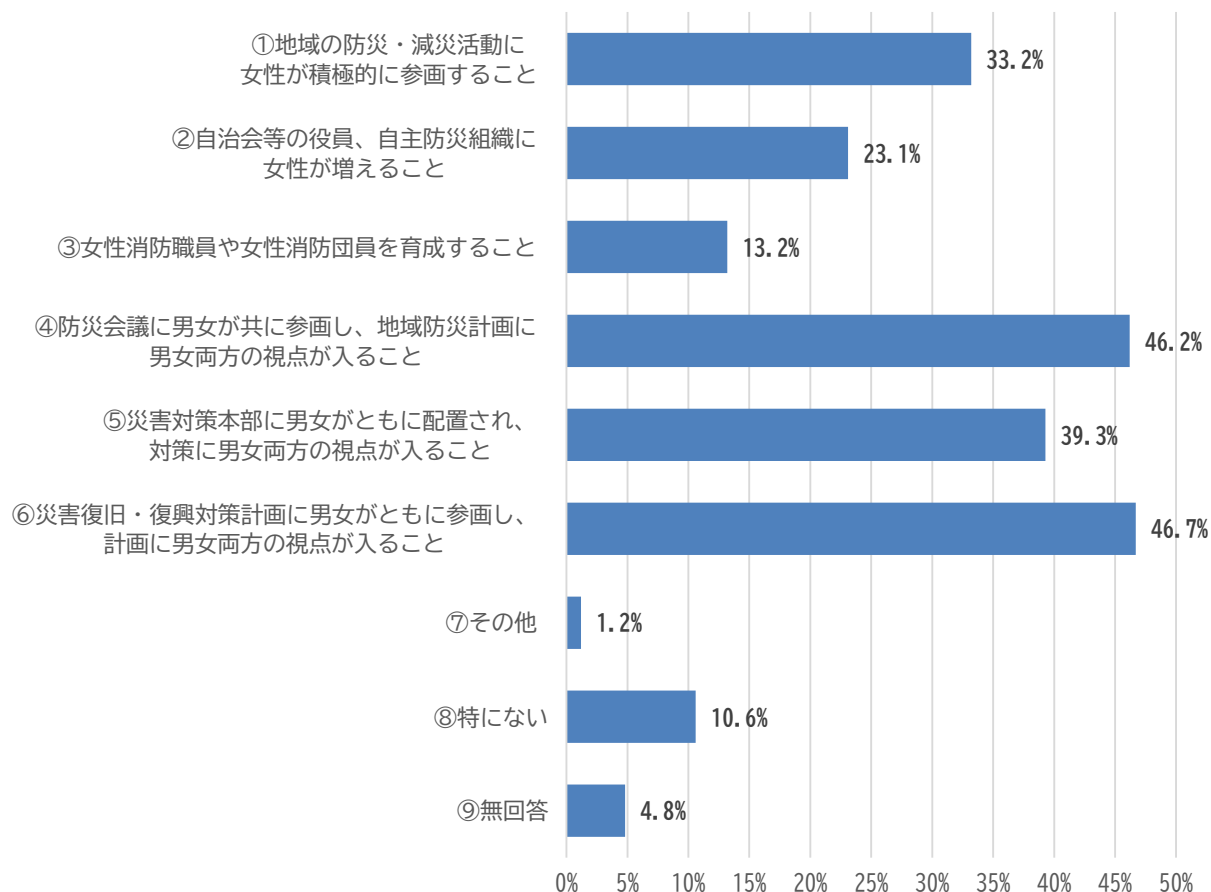


①「何でも相談できる窓口」が57.6%と半数以上求められています。続いて、③「支援制度の情報提供」36.7%、⑧「専門家による相談支援」24.8%となっています。困難な問題の解決に向けては、相談窓口を求める声が多く、情報提供や専門的支援を含めた総合的な相談体制が求められています。

9 防災分野における男女共同参画について

問31

防災分野における男女共同参画を推進していくためには、どのようなことが必要と考えますか(回答3つまで)



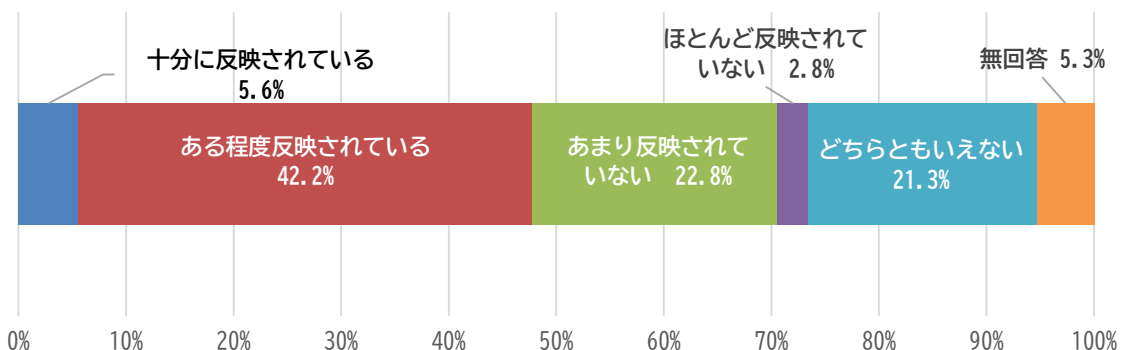
④「防災会議」、⑤「災害対策本部」、⑥「災害復旧・復興対策計画」に男女両方の視点が入ることの3項目の回答が多くなっています。

②「女性を増やすこと」そのものより、防災等の計画策定や災害対応の意思決定に男女双方の視点を取り入れることが重要と考えられていることが分かります。

10 意思決定の場における女性参画等について

問32

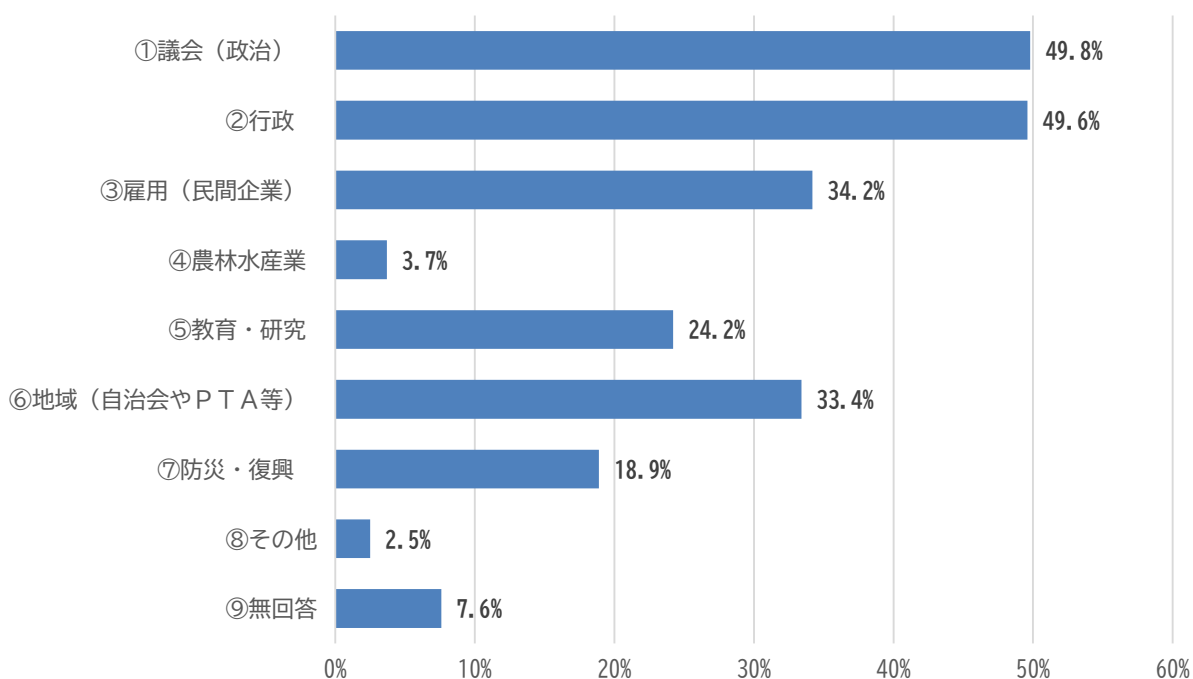
あなたはあらゆる場において、女性の意見や考え方が反映されていると思いますか



「十分に反映」と「ある程度反映」のあわせて47.8%が反映されていると考えていますが、一方で反映されていないと考える人もあわせて25.6%います。

問33

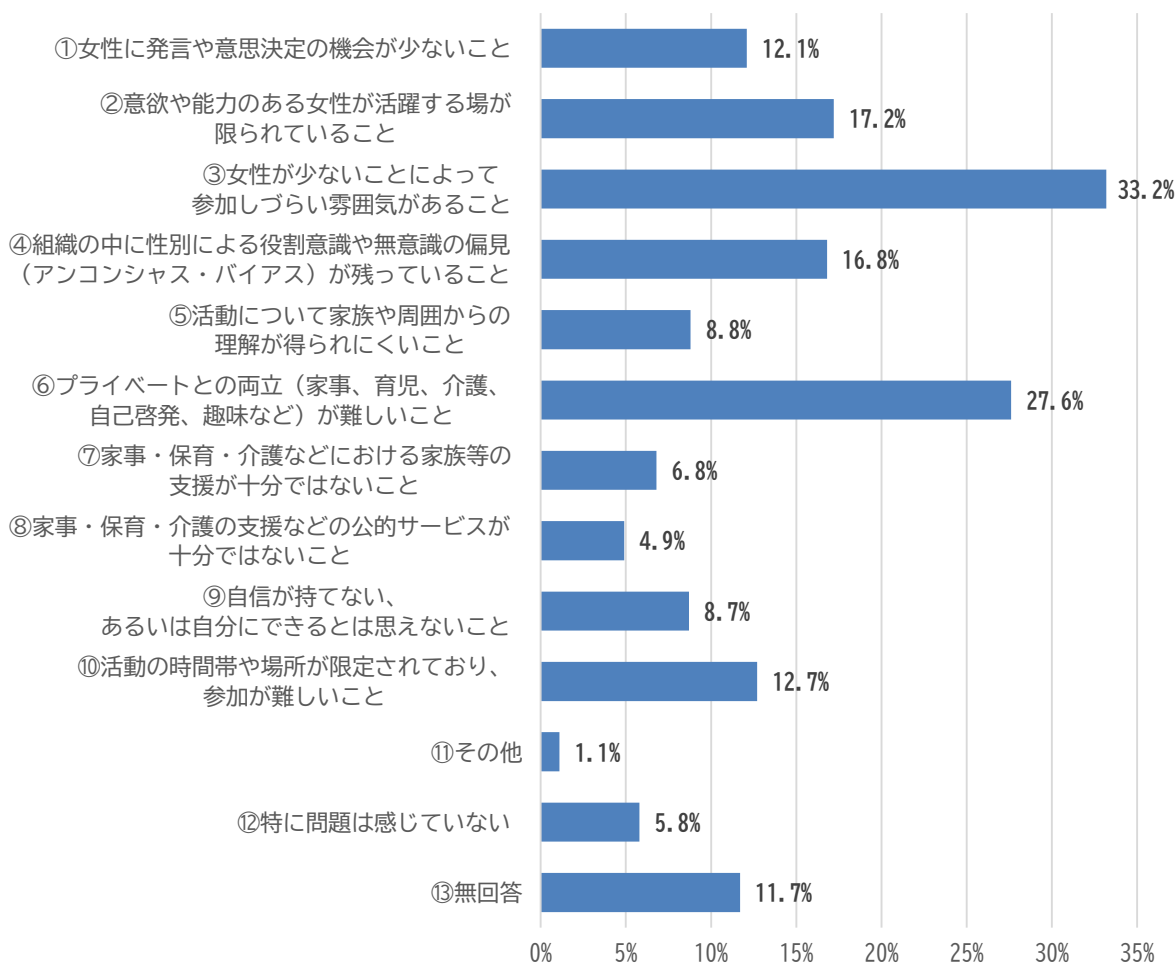
意思決定の場において女性の意見や考え方を反映させるために、今後、どの分野での女性活躍が重要だと感じますか(回答3つ)



①「議会(政治)」49.8%と②「行政」49.6%の約5割に続いて、③「雇用(民間企業)」34.2%と⑥「地域(自治会やPTA等)」33.4%となっており、意思決定の場や職場、地域での女性活躍への期待が高いことがうかがえます。

問34

政治・経済・地域・防災などの各分野で、活躍する女性を増やすときに障がいになるものは何だと思えますか(回答2つ)



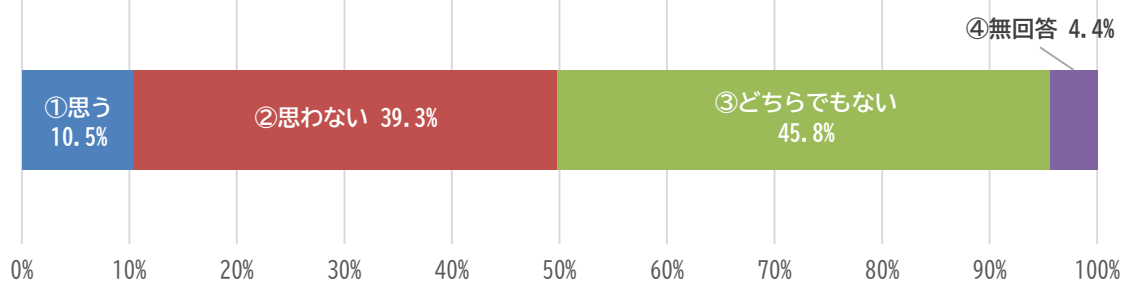
③「女性が少ないことによって参加しづらい雰囲気があること」33.2%が最も高く、⑥「プライベートとの両立が難しいこと」27.6%が続きます。参加しづらさと家庭との両立の難しさが女性の活躍を阻んでいると考えられており、参加しやすい環境と雰囲気づくり、両立のための体制づくりや支援が必要です。

問35
公募委員についておたずねします



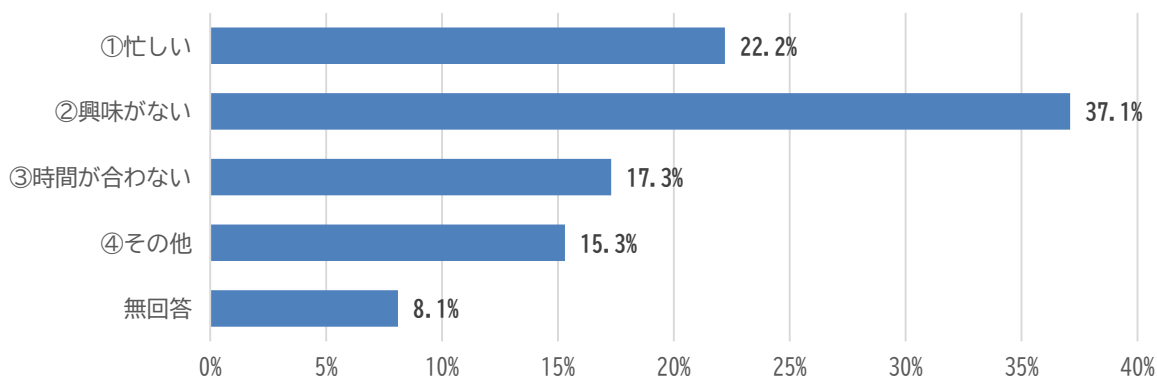
「知らなかった」72.5%が大半を占めており、制度認知が進んでいないことが分かります。

問36
審議会や、懇談会等、町政に意見や考え方を伝える場に参加したいと思いますか



「思う」は10.5%にとどまっており、積極的に参加したい人は少数です。

問37
問36で「2. 思わない」「3. どちらでもない」と答えた方におたずねします



②「興味がない」37.1%が最も高く、①「忙しい」22.2%、③「時間が合わない」17.3%と続きます。

参加しやすい環境と体制づくりはもちろんですが、関心不足への意識づけが必要です。

11 自由記述

寄せられた意見について、8つのテーマで整理しました。

①男女共同参画の考え方・制度への意見

・男女共同参画というフレーズ自体気になる。住民公平参画であるべきかと思う。男・女という表記自体、区別されているように感じている。(50代女性)

・男女平等を掲げることは良いことであると思うが、それは女性優位の世の中を作ることではない。程度を大事にしてもらいたいと強く思う。具体的に育児であれば、育児休暇は男女問わず取れるべきであると思うし、政治・行政に関しても、女性が女性に対する意見に対して、男性も意見を述べるべきである。「寄り添う」はやさしさではなく、それも合理的で平等に行うべきである。つまり、私が思うのは、今の政治は男女平等観念において、雑に適当である。考えたふりはやめて頂きたい。(20代男性)

・女性・男性と言っている事に疑問。ひとり親になって感じた事は、収入に関して手当が無くなることは良いのだが、医療は男性でも病院に行くことはある。それは、人間として同じなのに、なぜ女性無料になるのか意味がわからない。全国的に女性はという事こそ、男女不平等ですと言っている気がする。(40代男性)

・いろいろな事で特別視をしない。(70歳以上女性)

・男女という区別ではなく、町民共同参画のほうが良いのではないかと思う。女性であっても男性であっても性別は関係なく、人々がそれぞれに共同に計画・参加できればと思う。(50代女性)

・「男女」という言葉自体が共同参画の中に入れなくて良いような時代がきたら良いと思う。このアンケートで、既に区別されている気がする。(50代女性)

・男女差別はダメだと思うけど、そもそも男女の区別があるのは当たり前だと思ってる。何でもかんでも男女平等にしなくても良いのでは。出産は女性しかできないことだし、男性にしかできないことだってあるし。平等ではなく男女尊重くらいな感じがしっくりくる。(40代女性)

・男女共同参画について、賛同しない。日本は元々男女共同。(70歳以上男性)

・そもそも、男性女性の前に人として、ほかの人を尊重できているでしょうか？年齢を重ねるごとに上司、部下みたいな考えの方が多くなります。男性でも女性でも。仕事上はそうであっても、生活の中では年上でも年下でもお互いを認め合って尊重していけば、男性だから～女性だから～という今の問題は少ないと思います。ジェンダーや男女平等の名のもとに各元の都合を押し付け合った結果が今だと思います。すべての事を男女一緒ではなく、事柄によって、男ならではの考え、女性ならではの考えがあって当然で、それをまとめる側がお互いを認め合って尊重できる人間でない今の状態がただ続くだけだと思います。男女平等と男女公平の本質を、それぞれがそれぞれの立場で理解することが大事だと思います。(30代男性)

・必ずしも女性がすべてに参加しなければいけないとは思わないが、参加したいのにできないのであれば改善するべきだと思う。適材適所とあるように、性別で得意不得意もあると思う。女性だから男性だからではなく、個人の能力が適所で発揮されるのが一番いいことだと思う。自分の仕事はほぼ90%女性だが、男性がいたとしても何とも思わない。技術がなければ生き残れない職種なので、お互い頑張りたい。そう思えるのが一番だと思う。どの職場でも。乱文失礼しました。(40代女性)

・男女が相互に寄り添い、お互いに尊重することが大事！（現在女性の方で、権力を行使して偏った情報を発信している)(20代男性)

・男性の活躍と女性の活躍では、それぞれ結果や質が異なってくるのは当たり前だと思う。個人の能力が基準になれば、活躍する人の性別による差別は見られないと思う。情報を広く発信することと、受け取る側の十分な理解努力が必要だ。(30代女性)

・男女関係なく能力で決める。それができないならお金がもったいない。(30代)

・「男だから」「女だから」ではなく、お互いに尊重し、対等な立場で個性や能力を発揮できるように意見を受け止め、認め合いながら話し合いをしていくことが大切なのではと思う。(30代女性)

・女性自身が、活躍したくてできないのであれば、平等に参画できるようにすればよいが、そもそも積極的でない場合には女性だからと性区分により参画されるのは(強制参加)次に続かないと思う。ただ、男性にくらべ女性が意見を言う場が少ないので、多くなるような練習の機会などあれば意見したい人はいると思う。(40代女性)

・男性が、女性がとかではなく、能力のある方ややる気があるかが大事なのかなと思いました。男女関係なくそんな人をサポートしていくことや活躍の妨害をしないことがそもそも必要だと思います。

・私の周りではあまり男性だから女性だからと耳にしたり目にしたりすることがなかったのでこのアンケートに少し驚きました。きっとまだ男女での差などが見えている場面があるからアンケートがあるのかなと思いました。少しでも住みやすい町になってもらいたいです。(30代女性)

②女性の活躍、意思決定への参画

・まだまだ男社会が目立つというか、女性の意見をもっと聞いて取り入れてもらえれば良いと思う。(50代女性)

・本来、自分もできれば町議会議員になりたかった1人。もう無理かも。もう少し女性の議員ができればと思う。2人でも3人でもできればの話です。(70歳以上男性)

・能力のある女性は、役職に付けるような環境を作る。自治会などで世帯主の集まりがほとんどなので、地域から何度か夫婦同伴で自治会を開き、女性の意見を集め発信して行く事も良いのではにか。(70代男性)

・町長、教育長、学校長、どれをとっても男性ばかりです。地位や名誉へのこだわりが男性と女性で差があると思う。男性が求めることは当たり前で、女性が求めるとウワサされる。また結婚観において男性が女性に求めるものが収入よりも家事・育児能力が現実。学校教育から男女平等を教える必要があるのに、そのTOPが男性。これでは、いつまでたっても女性平等になるわけがない。女性管理職が増えないのは、なったところで何も変わらないと知っているからで、女性管理職の上がやはり男性だからです。そして、男性の方が多く、女性の声は勇気を出して発しても消えるからです。このアンケートの結果を評価するTOPが女性であることを願います。(40代女性)

・社会に女性の視点を取り入れることは重要なことだと思います。(70歳以上男性)

・女性も活躍できる場があればいいですね。(20代男性)

・前線で活躍したいと図ベ手の女性が思っているわけではないと思いますが、そういった女性が育つ社会になっていくといいですね。(30代男性)

・今の役場の状況的に町全体にその考えを普及したいといっても説得力に欠けると思うので、まず役場の管理職(補佐含む)の半数程度を女性にしていはいかがでしょうか？いろいろな問題的や正事項も見えてきて普及の役に立つと思います。(30代男性)

③固定的性別役割意識の見直し・意識改革

・高齢男性の考え方が変わることを望みます。(60代女性)

・必要なのは、やはり教育かな。(70歳以上男性)

・育児に関しては、女性が担う場合が多いため、参画しにくいことはいなめない。そのようなことが多いと、「だから女性に任せられない。」と考える男性がいるため、始めから参画しないという女性は多いと思う。男性の(古びた)意識が変わらなければ、女性は今後も社会に出て活躍したいとは思わない。(メリットがない。)(40代女性)

・地域や行事で女性や高齢者は意見を控えていました。これからの世代は堂々と伝える社会にして下さい。(70歳以上女性)

・女性自身が、家族の在り方、女性・男性らしさ等、従来の固定観念のままの人が多いため、女性の考えが変わる必要を感じる。又、出産・育児の期間、仕事との両立が難しくなるが、この点を社会の仕組みで男女平等に近づけると活躍する女性が増えると思う。(60代女性)

・共働きの世の中なので生活していくには協力が必要です。次の世代にも男だから女だからという理由だけで平等にならない社会が当たり前にならないようにしたいですね。考え方を考えるのは難しいことなので、私たち大人が子供たちに教えて伝えていけたら変わるのではないかと思います。(30代女性)

④子育て・育児支援、仕事との両立

・このアンケートに答えると、かえって女性の負担にならないか気になります。女性が精神的・肉体的に負担にならないよう自然な形でお願いします。(70歳以上男性)

・スーパーでパートをしていますが、以前(子供の頃)に比べると明らかに男性1人のお客さんが多いです。家庭において男女が協力しているというより、一人暮らし(独身、独り身になった)の人が増えているように思います。まず、結婚、子供を産んでも楽しく暮らせる、そしてその子供も地元で暮らしたいと思える街づくりが必要だと思います。男女参画、やはり、どこのお店・職場でも店長・社長は男の人がほとんどです。やる気のある女性を支える支援(特に子育て)を充実してほしい。(私は受け身などの、今のままで年をとっていきます。)(40代女性)

・女性が活躍することは良いことだと思います。子育て支援・社会が安定していない状態では(家庭・子供を持つ)厳しいと思います。アメリカ、中国、韓国のいいなりの国政府はアテにせず、個々が考えて自立していけること、そういった教育をしていくことが大切だと考えます。(50代男性)

・女性自身が、家族の在り方、女性・男性らしさ等、従来の固定観念のままの人が多いため、女性の考えが変わる必要を感じる。又、出産・育児の期間、仕事との両立が難しくなるが、この点を社会の仕組みで男女平等に近づけると活躍する女性が増えると思う。(60代女性)

・子どもがいる人への支援。 ・地域活動の時間帯、働いていたら行けない時間帯であることが多い。(30代男性)

・産休、育休後の職場復帰について。希望すれば男女どちらかは時短勤務を数年できると望ましいのではないかと。正職員としてです。制度のひとつとなれば若い人たちも子育てしやすいし、男女ともに仕事を続けやすい。(60代女性)

⑤働き方・労働環境の改善

・仕事をするための選択肢が少ない。仕事していて人が少ないため休みづらい。希望を伝えにくい。仕事中心の生活になることで他の事に目を向けにくい。(40代女性)

・町の役職に女性が活躍する。もっと社会に活躍できたらと思う。男性目線で同調せず、職場の仕事の貢献度で女性も評価してほしい。男性の長時間残業をなんとかして、5時には全員で家に帰る事。全員男性も女性も5時に仕事を終えて退社する事。徹底しなければいつまでもただら残業してはダメ。上の認識が変わらなければ、社会が変わらない。男性も早く帰り、家事等やれば良い。そう人達が多くなることをねがっている。日本の男性も女性も、残業しすぎと思う。(70歳以上女性)

・健全な労働環境の確保と、正社員での雇用の増加が望ましいと思います。(30代女性)

⑥啓発・情報発信の充実

・広報誌の情報発信はともかく、SNSはどうかと思います。悪用されるかもしれないので、別の方法を考えるべきではと思います。スピード重視の時代ですが、情報が拡散しすぎるのはどうかと思われます。事実が伝わるようにしてほしいです。(60代女性)

・問36「調整に意見や考え方を伝える場に参加したいと思うか」で思うに○にしたけど、希望であって、現実には、そんな場所や会がある等の情報を知る事は少ないと思う。(70代女性)

・様々な取り組みについて具体的にどのような事をしているのか良く知らないで、もっと身近に知ることが出来たら良いなと思います。個人的には、この田舎の小さなコミュニティで過ごすというのは、男・女・個よりも、住民同士の距離感、詮索、古い考え方、生活圏の重なりを上手く受けとめないと、極めて生きづらいと感じているので、「こどもは？結婚は？」等、田舎ハラスメントの方が正直めんどくさいです。男女共同にしたいという気持ちがあります。すみません。(40代女性)

・もともと共同参画の事業について知らなかった。もっと町民に知らせる為、啓発したら良いと思う。社協とか行政などで、地域の方々に勉強会をやったら「こういう事があるんだ」と理解できると思う。そうしたら、何人かに1人・2人とボランティアをやってみようかという人がいるかもしれないと思う。そういうきっかけが大事だと思う。(70代女性)

⑦地域社会・まちづくりへの提案

・年齢的に積極的に関わる事が難しい。参画したい気持ちはあるが、なかばあきらめの境地である。これからの若い世代に頑張ってもらい、より良い愛南町を作り上げてほしい。(70歳以上女性)

・若い人が一度、愛南町を離れても愛南町に戻り、いきいきと働ける場所があれば良いと思います。特に一次産業など、AIを取り入れてみるとか。(70歳以上女性)

・自分のやりたい事があるなら、遠慮せずにやれたら良いなと思います。(70歳以上女性)

・皆が自由で思いやりのある町に成る事を希望したい。(60代女性)

・愛南町に住んで良かったと思える様になってほしい。頑張ってください。お願いします。(60代男性)

・男女共に若い方の生活が楽しくなるよう。人材が大切(助け合う)。人を思いやる気持ち将来の自分の姿を思い描く。豊かな感性の人々。愛南町が大好きな私より。(70歳以上女性)

・参加したい思いはあるが、介護の為中々できない。20年前に家内が亡くなり、今は一人で元気もない。これが夫婦なら時間もやる気も出るかもしれないと思うが、町内でもけっこう1人の人が多いと思うから、特に中高年のお見合いパーティーでもやって元気を出せるように企画してもらえないだろうか。できれば半年に1回くらいなにかやってほしい。本当に元気出てそういう共同参画にも出やすくなると思うが…どうでしょうか？(60代男性)

・趣旨に沿ってないことばかり書いてすみません。このアンケート資料を読んで、今の自分が今の時代についていけないと少し恥ずかしくなりました。愛南町自体その傾向にあると思われませんが、私の住んでいる所は、過疎化が進み、人口も減り、後期高齢者が多くなり、特に子供が少なくなって、可愛い声が聞こえなくて淋しいです。こんな静かなところで一日一日が何事もなく元気で暮らせれば良いかなと思うのですが、これじゃだめと反省することもたまにあります。なるべく外に出て人と話したり井戸端会議のできるような場所があったらいいのになと1人勝手に思ったり…今の世の中、何が起こるか分からない、災害もいつ来るか…そんな時、私はまだ元気な方なので、少しでも何か役に立てればいいのになと思っではいるのですが、その時になればあわてふためいてそれどころではないと自分勝手な自分もいます。小さな願いですが、この町でみんなで元気で仲良く暮らしていきたいと思っています。自分のことばかり書いて何のお役に立てずすみません。(70歳以上女性)

⑧アンケート・事業への意見

・このような意識調査をする事により、愛南町が変わる事を期待します。(70歳以上男性)

・これだけのアンケートを手書きで回収するのは大変だと思います。回答する側も字が汚くて申し訳ない。ぜひDX活用を。→グーグルフォームなどで十分ではと思う。(40代男性)

・このようなアンケートに時間や費用(税金)をかけてほしくない。(60代男性)

・このようなアンケートを取って何か大きく変わるのでしょうか？国→県→町 やりなさい。それでやらざるを得ないこの様な取り組みに利益があるとは思いません。時間と経費のムダ使いです。

最近の行政からのアンケートは何が知りたいのか？どんな理由でこのアンケート？と思うようなことが多いです。本当にこの事に「信念」持っている町職員の方が何名いらっしゃるでしょう？(未回答)

◆調査結果の全体的な傾向と考察

本調査の結果から、男女共同参画に関する意識は全体として、一定程度浸透しており、「性別にかかわらず能力や個性を発揮できる社会が望ましい」という考え方が広がっていることがうかがえます。

一方で、家庭や地域、職場においては依然として固定的な性別役割分担意識が残っており、男女の意識や実態との間には差が見られます。

特に、家事・育児・介護などの家庭責任については、女性の負担が大きい状況が続いていることがうかがえ、女性が地域活動や社会参画に参加しづらい要因の一つとなっていることが推察されます。

また、女性の管理職登用や政策・方針決定の場への参画については必要性を認識する声がある一方で、「性別ではなく個人の能力や意欲を重視すべき」との意見も多く、多様な価値観への配慮が求められています。

年代別では、若い世代ほど男女平等や多様な生き方に対する理解が進んでいる傾向が見られる一方、高齢世代では従来の価値観が比較的強く残る項目も見受けられました。このことから、世代間での意識の違いを踏まえた啓発や学習機会の充実が必要であると考えられます。

また、自由意見では、「男女共同参画という言葉そのものに違和感がある」「男女ではなく、一人ひとりが尊重される社会であってほしい」といった意見も寄せられています。制度の充実だけでなく、互いを尊重し認め合う意識の醸成や、取組内容を分かりやすく伝える情報発信の重要性が改めて示されました。

今後は、固定的な性別役割分担意識の解消に向けた啓発や教育の推進、仕事と家庭生活の両立支援、意思決定の場への多様な人材の参画促進などを進めるとともに、性別にかかわらず誰もが自分らしく能力を発揮し、安心して暮らし続けることができる地域づくりを進めていくことが重要です。

男女共同参画の推進に当たっては、一律の価値観を押し付けるのではなく、多様な考え方や生き方を尊重しながら、誰もが希望に応じて能力を発揮し、安心して暮らせる愛南町を目指していくことが求められます。

愛南町 男女共同参画社会づくりのための町民意識調査

～ご協力をお願い～

町民の皆さまには、日頃より町政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、町民それぞれが、自由な意思で個性及び能力を発揮することができる社会を実現することを目的とした、「愛南町男女共同参画推進条例」に基づいて、さまざまな取り組みを進めています。

このアンケートは、町民の皆さまの男女共同参画に関するご意見を伺い、今後の計画づくりのための基礎資料とさせていただくことを目的として、実施するものです。

調査にあたり、町内にお住まいの18歳以上の方から無作為に選ばせていただいたところ、今回はあなた様にご回答をお願いすることになりました。

アンケートは無記名で行い、個人が特定されることはありません。ご回答は統計的に処理し、調査の目的以外には使用いたしません。

大変お手数をおかけしますが、調査の趣旨をご理解いただき、アンケートへご協力くださいますようお願いいたします。

令和7年（2025年）10月

愛南町長 中村 維伯

ご記入にあたってのお願い

1. 回答は、封筒のあて名のご本人がお答えください。
2. 黒の鉛筆又はボールペンなどをご記入ください。
3. 回答は、あてはまる番号を○で囲んでください。回答数は、各設問文に（○印1つ）（○印3つまで）などと指定してありますので、それに従ってご回答ください。
4. （○印3つまで）などと回答数を指定してある場合は、あなたの気持ちに最も近いものから順に選んでください。（あてはまるものすべてに○）の場合は、あてはまるものすべてお答えください。
5. 設問によっては、該当する番号に○印をつけた方だけに答えていただく設問がありますので、その説明に従いご記入ください。
6. ご不明な点、調査に関するお問い合わせなどは、下記までお願いいたします。

調査のお問い合わせ先

愛南町役場 企画財政課 政策推進室
〒798-4196 愛媛県南宇和郡愛南町城辺甲 2420 番地（電話：0895-73-7075）

記入していただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて、切手を貼らずに **10月31日（金）**までに郵便ポストに投函してください。

1 あなたご自身のことについておたずねします

問1. あなた（宛名のご本人）の性別をお答えください。（○印1つ）

- | | | | |
|-------|-------|--------|-----------|
| 1. 女性 | 2. 男性 | 3. その他 | 4. 答えたくない |
|-------|-------|--------|-----------|

問2. あなたの年齢をお答えください。（○印1つ）

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1. 18～19歳 | 3. 25～29歳 | 5. 40～49歳 | 7. 60～69歳 |
| 2. 20～24歳 | 4. 30～39歳 | 6. 50～59歳 | 8. 70歳以上 |

問3. あなたの職業をお答えください。（○印1つ）

- | | |
|-----------------------|---------------------------------|
| 1. 農林水産業の自営業主 | 7. 公務員 |
| 2. 農林水産業の家族従事者 | 8. パート・アルバイト・派遣・臨時など |
| 3. 商工・サービス業の自営業主 | 9. 家事専業 |
| 4. 商工・サービス業の家族従事者 | 10. 学生 |
| 5. 自由業（開業医・弁護士・芸術家など） | 11. 無職 |
| 6. 会社員 | 12. その他（ ） |

問4. 同居家族の構成についてお答えください。（○印1つ）

- | | |
|------------------------------------|---------------------|
| 1. ひとり暮らし ----- | → 問6へお進みください |
| 2. 夫婦ふたり暮らし ----- | → 問7へお進みください |
| 3. 親と子（二世帯同居） ----- | → 問5へお進みください |
| 4. 親と子と孫など（三世帯以上同居） --- | → 問5へお進みください |
| 5. その他（ ） --- | → 問5へお進みください |

問5. **（問4で3～5と回答した方に）**同居している子どもについてお答えください。
（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1. 未就学の子どもがいる | 4. 高校生以上の子どもがいる |
| 2. 小学生の子どもがいる | 5. 子どもはいない |
| 3. 中学生の子どもがいる | |

問6. **（問4で1、3～5と回答した方に）**あなたは結婚していますか（事実婚を含む）。（○印1つ）

- | | |
|--------------|---------------------|
| 1. 未婚 ----- | → 問8へお進みください |
| 2. 既婚 ----- | → 問7へお進みください |
| 3. 離別・死別 --- | → 問8へお進みください |

問7. **（問6で2と回答した方に）**共働きの状況についてお答えください。（○印1つ）

- | |
|------------|
| 1. 共働きである |
| 2. 共働きではない |

問11. あなたは、次にあげる用語の意味をご存じでしたか。(○印1つずつ)

	内容まで知っている (よく知っている)	名前を見聞きしたことがある程度	知らなかった
①男女共同参画社会基本法	1	2	3
②DV防止法(配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律)	1	2	3
③ジェンダー(社会的・文化的につくられた性別)	1	2	3
④ポジティブアクション	1	2	3
⑤マタハラ(マタニティ・ハラスメント)	1	2	3
⑥女性の職業生活における活躍の推進に関する法律	1	2	3
⑦愛南町男女共同参画推進条例	1	2	3

用語解説

① **男女共同参画社会基本法** … 公布・施行：平成11年(1999年)6月23日

概要：男女が社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のさまざまな分野に参画できるように、国や自治体が総合的・計画的に推進する法律です。基本理念や責務を定めています。

(出典：内閣府男女共同参画局HP、前橋市HP)

② **配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律(通称：配偶者暴力防止法、DV防止法)**

… 成立・施行：平成13年(2001年)、議員立法により成立

目的：配偶者からの暴力(DV)に対応するため、通報や相談、保護、自立支援などの仕組みを整備し、被害者の保護・支援を図る法律です。(出典：内閣府男女共同参画局、日本女性学習財団)

③ **ジェンダー** … 定義：生物学的な性別(セックス)に基づく男女の違いではなく、社会的・文化的に形成される性別のことです。(出典：内閣府男女共同参画局『第2次男女共同参画基本計画』P13より)

④ **ポジティブアクション** … 概要：社会的・構造的に不利な立場にある人に対し、一定の範囲で特別な機会を提供する暫定的な措置で、実質的な機会均等を目指す取り組みです。(出典：内閣府男女共同参画局(定義趣旨))

⑤ **マタハラ(マタニティ・ハラスメント)** … 定義：妊娠・出産、育児休業等を理由として、解雇、不利益な異動、減給、降格など不利益な取扱いを行うことをいいます。(出典：厚生労働省広島労働局ホームページ)

⑥ **女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(通称：女性活躍推進法)** …

公布・施行：平成27年(2015年)9月4日

概要：働く意思のある女性とその能力を發揮できるように、国や自治体、企業などの事業主に対し、女性の活躍に関する行動計画の策定・公表や、状況把握・課題分析を義務付けた法律です。

(出典：内閣府男女共同参画局、厚生労働省)

⑦ **愛南町男女共同参画推進条例** … 公布：令和6年(2024年)3月8日 施行：同年4月1日

目的：町民が自由な意思のもとで個性や能力を發揮できる社会を目指し、その基本理念を定める条例です。

5 学びの場における男女共同参画についておたずねします

問23. あなたは、子どもの育て方について、どのように考えますか。(○印1つ)

1. 男女の役割を固定せず、わけへだてなく一人ひとりの個性を大切にしながら育てたほうがよい
2. 男らしさ、女らしさを多少は意識して育てたほうがよい
3. 男女で教育方針を明確に分けたほうがよい
4. その他 ()

6 地域活動への参加などについておたずねします

問24. あなたは、次のような地域活動に参加していますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 自治会、婦人会、老人会、PTA、子ども会などの活動
2. 趣味や教養、スポーツ、レクリエーションに関する活動
3. リサイクル、環境保護、まちづくりなどの活動
4. 福祉・ボランティア・NPOなどの活動
5. 防災・防犯などの地域活動
6. 職業技術や資格の取得に関する活動
7. ホームステイ受入れや海外ボランティアなどの国際交流活動
8. 行政の各種委員会や審議会の委員などの公的活動
9. その他 ()
10. 特に参加していない

問25. あなたの住んでいる地域でのさまざまな活動において、男女共同参画を積極的に進めるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○印3つまで)

1. 地域の社会通念や慣習を改めるための啓発活動を充実すること
2. 地域活動のリーダーに女性を積極的に登用すること
3. 女性のリーダーを養成するための講習会などを開催すること
4. さまざまな立場の人達が参加しやすいよう活動の時間帯を工夫すること
5. 地域活動やボランティア活動についての情報提供を充実すること
6. 女性も男性も積極的に地域活動に参加すること
7. 家族の理解と協力を得ること
8. その他 ()
9. わからない

7 ドメスティック・バイオレンス（DV）についておたずねします

問26. あなたは、ドメスティック・バイオレンス（DV：配偶者や恋人など親密な関係にあるパートナーからの暴力（身体的暴力のみでなく、精神的暴力、経済的暴力、社会的暴力、性的暴力を含む。））について経験したり、見聞きしたりしたことがありますか。
（あてはまるものすべてに○）

1. 自分が直接経験したことがある → **問27へお進みください**
2. 自分のまわりに経験した人がいる → **問27へお進みください**
3. 一般的な知識として知っている → **問28へお進みください**
4. くわしくはわからないが、言葉としては聞いたことがある → **問28へお進みください**
5. ドメスティック・バイオレンス（DV）のことを全く知らなかった → **問28へお進みください**

問27. **（問26で1または2と回答された方に）**あなたは、経験したことや見聞きしたことを、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。（あてはまるものすべてに○）

1. 家族や親せきに相談した
2. 友人や知人に相談した
3. 警察に連絡・相談した
4. 法務局や県庁、役場などに相談した
5. 女性相談支援センター（配偶者暴力相談支援センター）に相談した
6. 愛媛県男女共同参画センターに相談した
7. 医療関係者（医師・看護師など）に相談した
8. 弁護士に相談した
9. その他（）
10. どこ（誰）にも相談しなかった

問28. ドメスティック・バイオレンス（DV）を防ぐためには、今後、どのような取組が必要だと思いますか。（○印3つまで）

1. ドメスティック・バイオレンスを防止するための広報・啓発活動を積極的に行う
2. 家庭や学校で暴力を防止するための教育の充実を図る
3. 職場や地域で暴力を防止するための研修などの充実を図る
4. 被害者が相談しやすい環境づくりを図る
5. 被害者が援助を求めやすくするための情報提供を充実する
6. 被害者の一時保護などを行う「シェルター」の設置等を図る
7. 加害者への罰則を強化する
8. 暴力を助長するおそれのある情報（ビデオ・雑誌やインターネット等）を規制する
9. その他（）
10. 特になし

10 意思決定の場における女性参画等についておたずねします

問32. あなたはあらゆる場において、女性の意見や考え方が反映されていると思いますか。当てはまる番号を枠の中に記入してください。(○印1つ)

1. 十分に反映されている
2. ある程度反映されている
3. あまり反映されていない
4. ほとんど反映されていない
5. どちらともいえない

問33. 意思決定の場において女性の意見や考え方を反映させるために、今後、どの分野での女性活躍が重要だと感じますか(○印3つまで)

1. 議会(政治)
2. 行政
3. 雇用(民間企業)
4. 農林水産業
5. 教育・研究
6. 地域(自治会やPTA等)
7. 防災・復興
8. その他()

問34. 政治・経済・地域・防災などの各分野で、活躍する女性を増やすときに障がいになるものは何だと思いますか。(○印2つまで)

1. 女性に発言や意思決定の機会が少ないこと
2. 意欲や能力のある女性が活躍する場が限られていること
3. 女性が少ないことによって参加しづらい雰囲気があること
4. 組織の中に性別による役割意識や無意識の偏見(アンコンシャス・バイアス)が残っているため
5. 活動について家族や周囲からの理解が得られにくいこと
6. プライベートとの両立(家事、育児、介護、自己啓発、趣味など)が難しいこと
7. 家事・保育・介護などにおける家族等の支援が十分ではないこと
8. 家事・保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと
9. 自信が持てない、あるいは自分にできるとは思えないこと
10. 活動の時間帯や場所が限定されており、参加が難しいこと
11. その他()
12. 特に問題は感じていない

問35. 愛南町には、さまざまな審議会等(審査会、委員会、協議会など)があり、計画の策定、施策の推進、調査や審議など、多岐にわたる協議等を行っています。中には、委員を公募する審議会等があり、男女を問わず広く町民の方の意見を取り入れたいと考えています。

公募委員についておたずねします。

1. 知っていた
2. 知らなかった

問36. 審議会や、懇談会等、町政に意見や考え方を伝える場に参加したいと思いますか。

1. 思う
2. 思わない
3. どちらでもない

問37. 問36で「2. 思わない」「3. どちらでもない」と答えた方におたずねします。

1. 忙しい
2. 興味がない
3. 時間が合わない
4. その他 ()

問38. 愛南町が発信する情報（広報紙・SNSなど）の表現について、ジェンダーの視点から気になる点や改善が必要だと思われる点がありますか。（自由記述）

問39. 男女共同参画についての意見・要望などがございましたら、どのようなことでも構いませんので、自由にご記入ください。

～ご協力ありがとうございました～

